



羣書一覽

六

津田文庫
文庫 1
1501
6



和銅六年五月甲子

群書一覽卷之六

地理類

日本風土記 字本

五十卷



つだ文庫

續日本紀卷之六曰元明天皇の和銅六年五月甲子畿内七道の諸國
小制して郡郷の名好字に著其郡内は生ずるところの銀銅彩色草木會
獸魚蟲等の物具は色目録し及び土地の沃瘠山川原野の名號
の由ころろ又古老相傳つ舊聞異事史籍に載る言ふせしむる本
朝書籍目錄に風土記の扶桑略記を云ふ今并似用方葉
緯云今案すは元正天皇風土記の端なりきたしむるも
撰進の文あり又或は仁明帝に撰進したる延喜の町全
備りては撰進すは元正帝より以後撰進すは依
て史籍に載る所の出雲國の風土記に至る卷末は書しと云天平
五年二月卅日これに撰造す云々此間これと撰造すといふもいふは

群書一覽 和書部六

010190579552

奧書之右之風土記者山城國宇治郡之餘卷也嘉慶二年乙丑四月下旬左中將藤原元隆

日本惣國風土記卷二 大和國 一卷

奧書之右風土記殘冊十七冊之内大和國今度以台命之故訂謄者也寬文十年庚戌二月望大納言源通村在印

日本惣國風土記卷十六 大和國宇治郡殘缺 一卷

奧書嘉慶二年藤原元隆

日本惣國風土記卷十七 大和國平群郡殘缺 一卷

日本惣國風土記卷十四 和泉國 一卷

奧書之右一卷脫落錯簡不少惟以寫本不違一字書字者也文和元年

壬辰四月十五日朝散大夫中原師行在判 寬文十年 源通村

日本惣國風土記卷二十九 和泉國日根郡殘缺 一卷

奧書之右風土記之藤大納言高基卿家本校合畢文和元年中原師行

日本惣國風土記攝津國有馬郡 一卷 奧書藤原元隆

風土記卷十二 伊賀國 一卷

奧書之文和二年三月下旬權少外記中原忠胤在判

同異本 一卷

奧書文和元年中原師行 寬永十年 源通村

伊勢國風土記 自辨郡殘缺端四行虫喰 一卷 奧書中原師行

風土記 伊勢國桑名郡員辨郡度會郡殘缺 一卷 奧書魚名

風土記 尾張國 一卷

奧書之以伊勢長官蓮明院家本寫之畢為袖珍可秘者也權少外記

中原清職在判文和元年辛酉五月十三日又云尾張國風土記全部一卷

以覺勝院僧心御本寫之畢雖然虫食脫簡大災等處是非事款十

住心院心敬判大永四年甲申三月廿七日又云右之風土記二卷羅文災

虫食終為一冊而漸繕寫即為袖玉惜哉脫簡多而亦難窺丹智

多山田春日部愛智之五郡唯期後來同字而已弘治二年丁巳五月

廿四日權大官司富成判

日本總國風土記第十九 參河國室飯郡 一卷 奧書白濁

日本總國風土記第四十 三河國八名郡 一卷 奧書藤原元隆

日本總國風土記第四十六 遠江國伊波多郡殘缺 一卷 奧書仲原師行

日本總國風土記第五十二 藤河島渡郡殘缺 一卷 奧書同上

日本總國風土記第五十四 藤河伊藤原郡殘缺 一卷 奧書同上

日本總國風土記第五十五 舊河安并郡 一卷 奧書師行 通村

日本總國風土記第五十六 舊河室郡 一卷 奧書同上

日本總國風土記第五十八 舊河國止歇郡殘缺 一卷 奧書文和二年 仲原師行 又右風土記以舟橋秀賢家本字之畢 明曆第二丙申 二丙申被聽之書思字之畢 右當富家之制書也 中原職忠 又云右風土記舊河郡部以野村宗竹子本與中原職忠入道萃菴公羽家本校合畢 萬治元年 戊戌五月下旬 交野内匠頭 後水尾院御書庫奉行也 在判

日本總國風土記第五十六 舊河國舊河郡殘缺 一卷 奧書中原師行

日本總國風土記第五十七 舊河國益頭郡殘缺 一卷 奧書同上

日本總國風土記第五十八 舊河國止歇郡殘缺 一卷 奧書文和元年 中原師行 明曆二年 中原職忠 萬治元年 文野内匠頭

日本總國風土記第六十一 甲斐國八代郡殘缺 一卷 奧書白中原師行

日本總國風土記第六十三 甲斐國巨麻郡 一卷 奧書左中將元隆

日本總國風土記第六十四 甲斐國都留郡 一卷 奧書白濁

日本總國風土記第七十 相模國高座郡殘缺 一卷 奧原藤原元隆

日本總國風土記第七十四卷 相模國足柄郡殘缺 一卷

奧書 中原師行 中原職忠 交野内匠頭

日本總國風土記第七十九 武佐志多摩郡殘缺 一卷 奧書 師行 職忠

日本總國風土記第七十九 武藏國足立郡 一卷

奧書云右武藏國風土記足立郡之分以菅黃門家本與江日本校合 惜哉脫誤漏紙多而失素書專備 止口親之羊而已 文明八年丙申三月 下旬一條 藤原兼久 又云武藏國足立郡之風土記一卷以庭田羽林之家本字之畢 元龜元年辛未二月下旬 清二位宗利 又云右之風

日本總國風土記第四十七 備中國少田郡淺口郡殘缺一卷

奥書云右一卷罹火災兵乱重食之患絕殘簡如件惜哉唯期後來博洽之是正耳弘治二年丙辰五月十日權大官司言田成在判

風土記

豊後國球珠郡大野郡海部郡大分郡速見郡國府郡一卷

奥書云字本云永仁五年二月十四日書字畢同十九日一校了 文補四し未年臘月三日書字校合了 梵舜○按了 此書豊後風土記異本より前後相違す黒川道祐の雍州府志の凡例より本朝古有六十六州之風土記今録有出雲豊後之殘簡存す

肥前風土記

一卷

此肥前風土記ハ也ぐら長崎人大家惟年のよりあつて寛政十二(?)荒木田久老校正し訓点加つて上本す上層ノ異本誤字等の考附す

出雲風土記考 写本

一卷

荷田春満

出雲風土記の誤字闕又其の考なり近世武等松引澄すの奥書

國名風土記

八卷

右一卷養父春満(?)往年奉命校正日本出雲風土記之内所手録以贈下田師古也師古死後其父泉翁返之了以故在予家寛保二年十月 荷田在満記す作者のしるす

- 第一畿内五箇國 第二東海道十五箇國 第三東山道八箇國
- 第四北陸道七箇國 第五南海道六箇國 第六山陽道八箇國
- 第七山陰道八箇國 第八西海道九箇國附二島
- 筑前國續風土記 写本 二十八卷 貝原篤信

本居宣長が玉勝向より筑前國續風土記のりつてのり貝原篤信のりハ六七八十五十六五巻宛り其餘ハ一五十六の二巻と一巻像郡の二巻と一巻ハ一十五の巻ハ四十五のりも一巻像の二前の市社

て蓮如より其の蓮如書字の教行信證より故教行寺より

諸州めぐり

七卷 貝原篤信

卷之一二 西北紀行上下 山城西郡 丹波 丹後 若狭 西近江等の路

程記ナ

卷之三 南遊紀行 上中下 山城 河内 和泉 紀伊 大和

卷之六七 拾遺續諸州めぐり 美濃 関東より越前 敦賀まで

攝州島上郡高砂より室を河記ナ

大和名所記

二十卷 林宗甫

和州の事蹟概りしりし記ナ此書四名ハ和州舊跡考より

延宝九年辛酉四月宗甫漢字の自序より古記二百餘部ハ攝揚

囊括し二十卷ハ分ナ

第一添上郡 第二同上 第三同上 第四同上

第五添下郡 第六平群郡 第七廣瀬郡 第八葛下郡

第九忍海郡 第十宇智郡 第十一芳野郡 第十二葛上郡

第十三城上郡 第十四山邊郡 第十五高市郡 第十六同上

第十七宇太郡 第十八城下郡 第十九十市郡 第二十郡未考

古詠未考 延宝九年辛酉四月懶齋龜藏漢字の跋あり

和州巡覧記

一卷 貝原篤信

一ハ大和めぐりの記ナ此書京より吉野へ往來の路城ありし

大和一國の名所古蹟も此路程の中あり

和州ありし此書ハ袖本ハ付ハ靈地遺跡行程里數

導引假ナり元禄九年刊行

攝陽群談

十七卷 岡田篔志

攝州の事蹟概りしりし記ナ元禄成實より菊池新三郎漢文の序

卷之一二 攝津國緒歴 卷三より卷九まで 山海江河市里

陵等より歌名所より俗名所より

卷十 古宮 古地 舊屋 卷十一 神社 卷十二より十五まで 寺院

松村清之伯胤父考評 力石忠一叔貫參補とあり
首巻 鎌倉事蹟の大意のわけは鶴岡の由来松記一東北男
蛇谷のゆゑ 已下毎巻一日の行程松記量録一冊
○巻首は鎌倉總目 引書百十九部の目録 鎌倉の圖等とのす○貞
亨し丑雀山野節の序 甲子小春明の東臯心越の序 甲子姑洗力
石忠一の序等あり○巻末は貞亨二年し丑洛下書林柳枝軒茂木方

淡海士心 附録一卷 字本 共七卷

血江一國のゆゑつぎの作者つぎのゆゑ
第一巻より第三巻まで 國号 灘の稱号 諸浦舟数 土産 舊都
古戰場 和歌名所 名木 古塚 神社 佛閣等のゆゑのす故
附録 血江國誌目録
白濱 蟬丸 志賀 兼平 竹生島 大會 源氏供養 三井寺 関寺

小町 鸚鵡小町 已上百番 望月 鐘引 巴 烏帽子折 已上百番
今生巴 魚源太 已上二百番 伊吹 笛狂 神惜 トシサバ 木下巴
義平 二井水 多賀 伊吹弥三郎 法性坊 唐崎 雪月花
鶴次郎 泣不動 野寺 ツカフシ 八景 粟津原 現在熊坂
相坂雞 相坂盲 佐々木判官 醒井 草紙源氏 サチ 三井寺禪師
御輿振 鳥廻 浄名 慈覚 比良 秀郷 三尾 水尾山 志
賀忠度 已上十番

信濃地名考 三卷 吉澤好謙

此書一名科野名寄り以信濃國の名を以て古歌四十餘首おも
ひて或は方俗の談を以て其方角考へて一餘多を古書と
引く徴す編中より就く地名事實産物等の考を載せり
舊記の援く事證は其下より又土地の古名今世の俗名を
たゞし考へたり信濃の全圖及び郡の圖久米路橋の
圖古牧地の圖等に編者吉澤好謙信州のく○明和辛卯信濃

新編 和書部六

筑前名寄

二卷

貝原篤信

元禄辛未九月篤信真字の自致する右筑前國の名區古人の歌詠
小抄たるもの凡六十餘境諸歌集及び古記のしるすもの考案す
るに又これ各郡の郷邑を巡察して問う爰に各問うて足す
河菟軒編成なりす元禄六年とす

名所類

名所方角抄

一卷

宗祇法師

國々東西南北よりち名所は方角抄に古歌詠引連歌の行合
りたりす寛文六年とす○按す此書宗祇法師の編りて
りては抄を其方角抄とすりて魏城なり今人近遠かり
りて目又觸るる志のいりて似たり其抄の名不詳とす
て五畿七道抄とすりて一道の中にも國々東西南北とす
一國の中にも郡々の方隅とすりてよづらとす

勅撰名所和歌抄出

写本

二卷

宗碩法師

山嶺萬葉とて次第とて類例とて名所はのちありて
りて勅撰集の歌詠なり○奥書に云此勅撰名所和歌抄出
連歌用意宗碩法師抄出之分而為上下二冊凡連歌付合事
續後撰集可用本歌之由去年重而伺天氣令治定畢於作例者

和書部六

和書部六

ト乙

至新續古今集可引用之間今取此抄也
内府凡歌教九百二十七首歌々々
槐蔭散人御判

歌枕名寄

二十五卷 二十九本 澄月

此書或ハ澄月歌枕或ハ澄月名寄と稱す名不代歌枕國々々
廣くあつたやうに撰集の詞をかくし書の上には載るる不
畿内部二卷 東海部五卷 東山部七卷 北陸部一卷
山陰部一卷 山陽部二卷 南海部二卷 西海部二卷
未勘部二卷 總目錄一卷 總計二十五卷多く二十九本也
○引書目錄勅撰集古今より新後撰多し目錄の外に引書あつたの
書は考ふるに 萬葉集 古今六帖 新撰六帖 現存六帖 三首番歌
合 千五百番歌合 仙洞歌合 建保歌合 室治百首 弘安百首
心治百首 堀川百首 野宮十首 懷中抄 明玉集 万代集 習俗抄
良玉集等し○總目的首は乞食活計客澄月撰と云ふなり又同卷
の終は眞字の跋ありて世に澄月歌枕と号するもの頗一様なり

名所類字和歌

四卷 細川進齋

或ハ歌數此抄ありものありハ名所雜記なるもの多し信用と
執しつゝ頃日本類聚一箇松竹のうつくしき人なり披くこれ
何處も又澄月歌枕名寄なり漸く尙る略つていへば歴視す
これ抄模字一教月々々其切紙抄々々々徳目録一巻抄撰し
てそれ切に附す多し于時万治二己亥曆夷則中旬城北乞食抄消盡す
代ハ此勅撰集より名所のいへば撰しむる國々松竹ちちやせり○此
書一々小名寄と稱しつゝハ類字小名寄と稱す
類字名所和歌集 八卷 里村昌琢
二十一代集より名所の歌採摘しつゝは似以て名不代とちち
の次第よこれに列す○巻首は名不國分目錄あり一々大名寄と
り寛文八年法橋日球の眞書なり此書元和の編輯也
類字名所和歌集拔書 五卷

本書の中より連歌の付合は便りよくしるべしと云はれしものし撰者

類字名所補翼抄 写本 七卷 沙門契沖

昌琢の類字名所の歌ハ二十代集の外に出ず此書ハ萬葉夫木其餘古物語諸家の集等より彼類字名所の補翼と云ふものなり毎巻代々ある契沖のといふものなり書入らるるものなり考もいろいろ其有益の書し〇此書舊名勝地一覽と云ふ

類字名所外集 写本 九卷 同上

右の補翼抄の外は考へられし歌もいろいろ諸書に引てたり此書も毎巻のといふものなり名所の補翼と云ふものなり或ハ古來傳へたるもの國の相違せしり怪月名等松葉集等にも考へ合せしりこれ補翼といふものなり名所の補翼と云ふものなり名所の補翼といふものなり名所の補翼といふものなり名所の補翼といふものなり

松葉名所和歌集 十六卷 宗惠

宗惠の類字名所集のせしり歌もいろいろの二十二代集の歌の多く類字名所集に載れしものなり遺りしものなり其他の諸書より採擷せしり引用の書ハ
萬葉集 二十二代集 古今一帖 現存六帖 新撰六帖 坂川百首 建保百首 藤川百首 神道百首 六百番歌合 千五百番歌合 御裳衣濯川歌合 宮川歌合 心法歌合 勅撰名所集 新葉集 歌仙家集 散木集 後鳥羽院御集 六家集 草菴集 方与集 玉計集 類聚名所集 類字名所集 後醍醐天皇千首 為子千首 能因歌枕 大和物語 住吉物語 源氏物語 梁塵抄 八雲御抄 袖中抄 一字抄 撰集抄 懐中抄 夫木抄 七帖抄 春雨抄 題林抄 源協草 長明道記等なり〇續松葉集卷之四のすし不の松葉集真書の文々名不なりと云ふものなり名所の補翼といふものなり名所の補翼といふものなり名所の補翼といふものなり名所の補翼といふものなり八雲抄のいハ藤原氏夫木なりと云ふものなり名所の補翼といふものなり名所の補翼といふものなり名所の補翼といふものなり

和歌一覽

名所牛瀧山 信貴山 飛鳥山 呂川 入向川 等城あり。歌がたゞ近代
諸家の集り考へこゝろ引書物奉りしにせむてこれの十
名所小鑑 一巻

名所のこゝろはるの才者も、ちり景物はあり、連歌自合のあり、
附せしむ者つぎひらりなり。 西順
歌林名所考 五卷

奥書に、連歌の付合は採用ゆゑ名所の今こゝろ書出すと、
凡六百所代は採集并に家々集夫木歌枕等より二千六百餘百
種に景物等えん。よまらひし書のすゝめなり。 高野直重
歌林名所追考 十二卷

西順名所考の増補なり。 四卷
袖珍歌枕 四卷
名所の歌はいろはにちりて、合せた上房をせり。

名所題林 五卷 岡西惟中

和歌枕題しみのすゑ名所の歌枕は、ちりつむ
枕 右抄 十二卷
撰集のちりり名所の歌枕は、つえ何と何とものいろはに、
上層に合せたなり。

歌枕秋の寢覚 二卷 有賀長伯
身しかりぬ名所の歌は、つえ何と何とものいろはに、
うらやませ景物等ありしに、よまらひし書のすゝめなり。

増補歌枕秋の寢覚 八卷 同上
前の書は、いしり増補し名所の歌を、つえ何と何とものいろはに、
よまらひし書のすゝめなり。

名所は、いしり 一巻 加藤景範
秋のねがぬるちりり近き名所も、つえ何と何とものいろはに、
撰集しよまらひし書のすゝめなり。

世に乃志せり 十二卷 有賀長伯

和書部六 三十三

安積沼 アサカノ 民部卿 布障子 松島 マツノ 芝前宰相 朝餉 アサカノ 遠里小野 トウリノ
 須磨浦 スモロ 日野前新大納言 布引瀧 フヅノ 帥言 御手水 ミテノ 間布障子 三津泊 ミヅノ 民部卿
 御湯殿上 ミトノ 次上濱 ツギノ 日上 布障子 藤代御坂 フジノ 日野藤大納言 藤壺上御
 壺称 ツバネ 滋賀樂山 シガノ 尹宮 志賀浦 シガノ 日野前新大納言 真野入 マノ 江芝山前宰相 逢
 坂関 フサノ 民部卿 秋戸 アキノ 清瀧川 シヨノ 中務卿言 伏見里 フシノ 日野前新大納言 廣澤池
 冷泉為則朝臣 神山 カミノ 帥言 昆明池障子 クニノ 嵯峨野 サガノ 右衛門督 荒海障子 アラノ 宇
 治川 ウヂノ 日野藤大納言

隨筆類 ズイヒツ

東齋隨筆

一卷

一條兼良公

後成因寺兼良公の隨筆小一と和漢の雜談如云々をたづね本朝

榻嶋曉筆 タカノ

写本

二十卷

此書ハ皇國の故事雜話ヲ外漢土天竺ニ及リテ書キテ了ス

隨筆アリ全部リテハ此書然トシテハ

第一 戲實 キジツ 此卷ハ生死佛法前後 國土起 字源 詩板

第二 一切施王 修持婆王 五帝 夏高王 神切白王后 延喜帝

第三 相論上 草花 春秋 月花 大宋元朝 大元日本寺のり

第四 相論下 天台 馬鳴 趣多 善吉寺のり

今考訂しなすの目次ありておの舟と除く
一考訂しなすの目次ありておの舟と除く
録を附す

一此書が考訂なりぬるも又舟字セハ誤なりせん必
此様よ上さう欲しともしや
少くもさかひくや後後写せん人唯う枝分
りてとらぬよの 天明二壬寅歳秋八月張州吳府書林西村常
榮誌

南嶺子

四卷

多田義俊

義俊後二桂秋齋と号す南嶺ハ別号なり此書神通の
國学の其餘種々其書し隨そかり○寛延己巳九月つ
人中山海龍序 陶山尚善序 良芝之伯耕の序有り
南嶺遺稿 四卷 同上
書體上ノ目ト宝曆丁丑九月良芝之の序あり目の上本

秋齋問語

四卷

同上

同の上本す
同の上本す

ちや草

写本

一卷

同上

俗のりしむるくつむらちの轉
和書のの亨禄二年熱田社奉請の女
右一卷延享卯の五月尾張へ歸
今ハ引用しつゝさかひぬ
一考訂しなすの馬のそれむけ
位上行中務權大輔藤原光香跋あり
ぬかり草紙 写本 三卷 同上
ぬかり草紙 写本 三卷 同上

春書一覽

上巻 近世神道家のしりとり本 出口延佳 垂加翁のしりとり 名法

要集のしりとり本 論ぜり

中巻 玉木翁 博徳大和 白井宗因 吉川惟足等のしりとり 其外近代

故實者のしりとり 鳴弦相傳のしりとり 満せり

下巻 橋家神軍流のしりとり 春臺辨道書のしりとり 職原のしりとり 壺井翁

と不和のしりとり 舊事紀のしりとり 大成経神道のしりとり 南上願遺稿のしりとり

○按ずるは此書のしりとり 南上願遺稿のしりとり 實既 南上願遺稿のしりとり 瘡のしりとり

しりとり 入序のしりとり 寛保三年六月多田兵部義寛のしりとり

宮川日記 写本 二巻 同上

此書ハ近享二年二月六日より三月十二日まで伊勢に逗留の間のしりとり

のしりとり 西宮の故実 神庫秘書のしりとり 傳世記のしりとり 審のしりとり

きり火の錐の圖 師衣のしりとり 猪鹿のしりとり 満せり

は 遠袋の圖のしりとり 柏の圖のしりとり ○近享内宣のしりとり 二月多田左衛門源満

茶蔵のしりとり

遊 和草 写本 二巻 同上

古子保十九年の秋大和郡山よりしりとり 茲のしりとり 茲のしりとり 茲のしりとり

名つけしりとり 書ゆは今世佛教家儒の説のしりとり 神道神曲のしりとり

かゝれ 瞻見のしりとり 又舊事紀のしりとり 十種神宝のしりとり 神書

正偽のしりとり 中つてのしりとり 肉食のしりとり 神別記のしりとり

引證す

續 遊 和草 写本 二巻 同上

古子保十九年の秋大和郡山よりしりとり 茲のしりとり 茲のしりとり 茲のしりとり

名つけしりとり 書ゆは今世佛教家儒の説のしりとり 神道神曲のしりとり

かゝれ 瞻見のしりとり 又舊事紀のしりとり 十種神宝のしりとり 神書

正偽のしりとり 中つてのしりとり 肉食のしりとり 神別記のしりとり

引證す

晴 鈴 八道草 五巻 丹羽桃丸

詳書一覽 和書部六

三十七

東都中良慶臣父著

卷之上 石敢當 金澤文庫 扶桑木 韓人詠歌 備人詠歌

琉人詠歌 倭繪師 賴朝卿殘墨 鐵塔導 燕澤碑 五葉

和尚 卽用集 新撰字鏡 平他字類抄 萬多親之 淺草寺

繪馬 古印等のり 卷之下 古甲由 危偶人 古刀 八徳 古鈴 東鏡跋 足利学

校 鬼一法眼のり其餘漢土のりも古抄の圖書のりなり

○寛政年中源忠道漢字の序同法眼甫周序 因是道人葛

質 氷齋銘等の跋り寛政十一年の月刻

閑

田耕筆

四卷

伴高蹊

高蹊のりしり所のふ所は閑田廬号す此書の巻首は如社
多の詩以載其詩を老来幾部著書成祇道屏居遂禪情取
是紙田前不得長遺筆未四時耕 此予ト右間田廬之初林泉院
六如尊者見惠之作真知予平生者也及著此書遂取之以名焉故掲之

巻首 高蹊識

巻一 天地部

巻二 人部

巻三 物部

巻四 事部

○自序云云 人乃のりしり身のりしり心もわつここのめ
くく及古のりしり書つけ書つたはりしり
人も惜むしり書つててんせしりす人のりしり
小いしりなももろのりしり五雅組のりしり
地人ものりしりあちのりしり
のりしりあちのりしりあちのりしり
さうのりしり人乃のりしりあちのりしり
のりしりあちのりしりあちのりしり

和書部六

雜書類

江

談

写本

三卷

大江家の人は詩文の松浦や一談話のりり江談一号十漢字よくあやう○按ずる安倍の仲磨漢土平一鬼形所くわく吉備大臣の事一信流すし付了る仲磨の事○卷之三仲磨詠歌並龜二年為遣唐使之時也仲磨渡唐後不帰於漢家柳上餓死吉備大臣後渡唐之時見鬼形與吉備大臣言談相教唐土事件仲磨不帰朝人也

古事談 写本

六卷

第一 王道 后宮

第二 臣節

第三 僧行

第四 勇士

第五 神社 佛寺

第六 亭宅 諸道

かくれど部ねらうくわいしんい付了るも真字よくあやう第一卷のりりめは孝謙天皇道鏡の罷りたするを

和書部六

和書部六

四十二

此書撰述の趣名ハ詩歌管絃の道ニ由リテ一々ノ事ヲ述ベテ其ノ旨ヲ示スルニ在リ
 餘波カキテ序も奥書も亦セリ

續古事談 写本 三卷
 第一 王道 后宮 第二 臣節 第三 雜事

古今著聞集 二十卷 橘成季
 此書撰述の趣名ハ詩歌管絃の道ニ由リテ一々ノ事ヲ述ベテ其ノ旨ヲ示スルニ在リ
 餘波カキテ序も奥書も亦セリ

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 卷一 神祇 | 卷二 釋教 | 卷三 政道 忠臣 公事 |
| 卷四 文学 | 卷五 和歌 | 卷六 管絃 舞 |
| 卷七 能書 術道 | 卷八 孝行 恩愛 好色 | 卷九 武勇 弓矢 |
| 卷十 馬藝 相撲 強力 | 卷十一 畫圖 蹴鞠 | 卷十二 博奕 偷盜 |
| 卷十三 祝言 哀傷 | 卷十四 遊覽 | 卷十五 宿執 鬪爭 |
| 卷十六 興言 利口 | 卷十七 恠異 变化 | 卷十八 飲食 |
| 卷十九 草木 | 卷二十 虫魚 禽獸 | |

建長六年應鐘中旬故木士橋南表漢字の自序より四年十月十六日竟
 二年十月十八日滿六十之老筆終二十帖之写功畢云々 老筆門在判
 ○元禄二年上木す

新著聞集 十八卷 二本
 近代見聞の記 一きこも地え人え然らざるも一しり 劔識
 ナキモノ 尤多ク一〇寛延二の三月刻

第一	忠孝篇	第二	慈愛篇	第三	酬恩篇
第四	報仇篇	第五	崇行篇	第六	勝蹟篇
第七	勇烈篇	第八	倭奸篇	第九	主屬篇
第十	奇探篇	第十一	執心篇	第十二	冤魂篇
第十三	徃生篇	第十四	殃禍篇	第十五	才智篇
第十六	清直篇	第十七	俗談篇	第十八	雜事篇

鹽囊抄

七卷 十五本 行卷

儒俗の故事、和漢の事、實五百三十二箇、條、國字以てあり、す、の、埃、字、書、は、音、愛、塵、也、と、し、る、の、奥、書、は、于、時、文、安、三、年、五、月、觀、勝、寺、金、剛、佛、子、行、卷、

塵添鹽囊抄

二十卷 十五本

序、に、云、せ、し、塩、囊、抄、七、卷、に、觀、勝、寺、行、卷、の、撰、す、と、し、る、が、り、又、塵、袋、十、卷、の、撰、す、と、し、る、が、り、し、は、言、辭、の、中、に、記、載、集、解、節、用、の、古、事、の、摺、摺、す、と、し、る、今、予、同、類、の、塵、と、拾、ひ、す、と、し、る、が、り、

世諺問答

三卷 一條兼良公

塵、の、し、ら、は、わ、く、二、百、一、箇、の、至、要、の、塵、の、箇、に、取、り、以、て、塩、囊、五、百、三、十、二、箇、の、中、に、添、か、す、都、て、七、百、三、十、七、箇、の、撰、す、と、し、る、が、り、二十卷、に、す、る、大、文、元、壬、辰、年、二、月、釋、氏、某、比、丘、の、此、書、曰、世、俗、の、こ、の、出、所、五、節、句、寺、の、俗、向、の、ゆ、れ、起、り、を、考、へ、と、し、る、が、り、

齊東俗談

七卷

本朝節序の故事、も、和書あり、を、後、成、因、心、寺、殿、の、作、り、の、孫、兼、冬、公、の、續、筆、と、し、る、の、兼、冬、公、の、跋、に、云、班、彪、の、史、記、の、沈、固、が、か、き、け、ぎ、系、式、部、の、源、氏、も、信、に、大、真、の、位、に、字、治、十、帖、の、一、竹、の、の、り、や、り、と、し、る、此、跋、扶、桑、拾、葉、集、と、し、る、が、り、

本朝俚諺

十卷 井澤長秀

此書ハ俗向通用の言詞、門、内、の、撰、す、と、し、る、が、り、釋、せ、り、の、弘、文、院、林、氏、の、門、人、松、浦、某、の、著、す、と、し、る、が、り、俗、向、の、こ、の、出、所、は、俗、向、の、い、は、れ、し、る、の、撰、す、と、し、る、が、り、

三十一頁

中卷 上卷の末より漢上朝鮮往復の書簡とのす
下巻 彼往復の書簡の幅のせり 龍運の品物記す
○文正丙戌八月十日泉南野山人周鳳瑞漢自序 丁卯春西山塞馬
閑人致り 以て致の印文中慶とあり ○此書の撰者相國寺鳳漢
和尚諱松周鳳とあり 日野准大臣兼宣の子とあり 魚求和尚乃子
たり 魚求諱ハ周仲夢憲國師の才子とあり 瑞漢一切經七十餘卷
乃抄出七卷なり 又諸書の抄出二百卷なり 明教大師とあり 此
此書天龍寺慈濟院虎林とあり 板行す 跋ハ虎林

異稱 日本傳

十五卷 松下見林

異邦の書は本邦のよみ載りしものなり 是れより下りて中世傳
のあやまりとくは是非混淆す 然るに松下西峰しりて漢工
朝鮮の諸書の本邦の事々のすものなり 本邦の書にも 漢工
のあやまりとくは是非混淆す ○此書は上中下三巻なり 上巻は三
巻より中巻は八巻下巻と四巻より上巻ハ漢魏晉宋齊

梁隋唐五季宋元 中巻ハ八明 下巻ハ斯盧の書簡のせり
卷上之一

山海經卷十二海内北經 南倭北倭燕は屬す

史記卷之六秦始自本紀 徐希海は入く神藥を求る

同書卷之百十八淮南王傳 徐福の

後漢書一百一十五東夷列傳 邪馬其國の

論衡卷之八儒增篇 倭人飽州と貢す

同書日卷之十九板園篇 同卷之五異盛篇

同書日卷之二十三超奇篇 暢早倭より獻す

魏志心卷三十倭人傳 伊都國 邪馬臺國 馬島國 為吾國 鬼

奴國 巴利國

呂士心卷之二 秦始皇帝方士徐福とあり 童男童女數千人

と將く海へ入く蓬萊神山及び仙藥を求めしり

晋書日卷九十七夷列傳 倭人より太伯の傳り

群書一覽 和書部六

四十八

和書部六

續博物志卷之五 倭辰より西峰の今案は倭ハ日本辰ハ辰韓

辰韓ハナリと云新羅ハナリと云

宋書日卷九十七列傳蠻夷 倭國ハ高麗東南大海中ニ在リ

南齊書卷五十八列傳東南夷 倭王武王トシテ西峯の今案ハ清寧

天皇トシテ白髮武廣國押樞日本根子トシテ故ハ略シテ倭王

武トシテ

南史卷七十九列傳 倭 後漢書日魏志宋書ト曰

北史卷九十四列傳 倭國 一支國 伊都國カトシテ又倭王姓ハ阿

每字ハ多利思比孤阿輩雞彌ト号ス

梁書卷五十四列傳四十八東夷 倭ハ古ク太伯の後トシテ

文選卷第十四 魏鮑明遠舞鶴賦日域ハ而テ以テ廻

述異記卷上 日本國ハ金桃トシテ其實重キト云

大廣益會玉篇卷之三 倭ハ鳥未切國名トシテ

隋書日卷八十一列傳東夷 西峰按下ハ隋書の説多ク前史トシ

唐書日卷一百二十東夷列傳 仲滿姓名ハ易ク朝衡トシテ

同書日卷一百二文藝列傳 蕭穎士字茂挺ハ倭國使ヲ遣

朝トシテ陳十國人饒ハ蕭夫子トシテ師トシテ中書舍人張潮

諫不可而止トシテ

卷上之二

舊唐書列傳卷一百四十九上 日本國ハ倭國の別種ナリト云仲滿中國

の風ト慕フトシテ留學子生橘免勢トシテ同僧空海トシ

同書日本紀卷四 倭國琥珀碼碯ト云

同書列傳卷一百四十下 蕭穎士の

唐丞相曲江張先生文集卷之七 日本王ト勅テ書の

通典卷一百八十五 倭後漢より通ズ

同書卷一百八十六 流求ト云倭國の使來朝ト云

此夷邪久國の人の用ト云

周禮註疏卷二十五 大祝辨九摎ト云四云振動ト云釋文ト云倭人

和書部六

四二九

拜す、両手拍以て相撃、西峯の按は倭當、倭は作、一倭而

唐詩鼓吹卷一 劉禹錫日本僧香藏に贈る詩あり

同書卷五 皮日休圓載上人の日本國へ歸るに送る詩あり

西陽雜俎前集卷之三 倭國の僧金剛三昧

李太白詩卷十六 身著日本衣の句あり 揚奔賢が註に求衣八則

朝卿が贈る日本布これ狐為と云ふ

同書卷二十五 晁卿衡が哭する詩あり 日本晁卿 薛帝都

杜子美詩分類集註卷六 集註に云日本國麒麟錦が獻する人の眼

目眩す

白氏長慶集 後序 日本暹羅諸國及兩京人家に傳寫する者

法苑珠林卷五十一 倭國ハ此洲外大海中ニ在リ

禪月集卷十二 僧の日本を歸るを送る詩あり

義楚六帖卷二十一 本國都城の南五百餘里に金峰山あり頂上は金剛

藏王菩薩のり、又東北千餘里に山あり富士と名づけ亦蓬萊

と名づく徐福此に止蓬萊より今に至り子孫皆秦民

宋史卷四百九十一列傳 雍熙元年日本國の僧齋然其徒五六人

海に浮て来り

文獻通考卷一百四十八 日本唐より以来屢貢使に遣す三月二日桃

花曲水宴八月十五日放生會あり百戲あり王す

同書卷二百四十二四裔考 倭即日本

雲笈七籤卷一百 軒轅本紀に云騰黃神獸あり日本國に出

卷上之三

太平御覽卷七百八十二 日本國 外國記に曰周詳海に泛り

上は約多し三十餘家あり是徐福童男の後と風俗異人似

太平廣記卷七十五 韓志和ハ倭國の人あり

同書卷二百二十七 又韓志和のりあり

同書卷二百二十八 大中日本國王子来朝す王子圍其茶と善す

和書部六

同書卷四百八十一 新羅國東南日本と鄰るる

文苑英華卷二百十九 錢起僧の日本へ帰るを送る詩有り

同書二百二十三卷より二百三十二巻に至るまで日本人の贈る詩并に

日本國王の勅する書并詩數十首と載

白王朝類苑卷四十三卷五十九 日本僧のゆゑと載

同書卷六十 日本扇のゆゑ 卷六十三 日本國梅頁のゆゑ

同書卷七十八 天台智者教五百餘巻を日本へ求るゆゑ

歐陽文忠公全集卷十五 日本刀歌有り

玉海卷一百八 大中七年四月日本王子が遣はるる米朝せしめ宝

器音樂の献するゆゑ

同書卷一百五十四 喬然のゆゑ 元豐元年日本僧仲地方物に貢

するゆゑ

書言故事大全卷之四 日本王子善棋の圖有り

米元章書史 陳賢草書奇逸して辨るる日本書の如し

中華古今注卷中 隋馬髻倭の墮髻有り

菊譜 新羅一名玉梅一名倭菊有り

鶴林玉露卷十六 日本國の僧安覺のゆゑ

大宋僧史略卷下 倭國則僧の傳法に師の号が勝る有り

歷朝釋氏資鑑卷五 其國書より日出處の天子より有り

教行錄卷四 日本國師の二十七問に答并序有り

同書卷六 四明尊者僧が日本國に遣はるるに王経疏が承る有り

釋門心統卷一 教行錄よりして王経疏のゆゑに洋にあり

同書卷二 日本國師源信二十七問のゆゑ 卷三 密教より空海のゆゑ

同書卷七 宗印字元安實より嗣法俊苾先より密教が日本に傳るゆゑ

西山の按は俊苾が白泉湧寺の僧元亨釋書より有り

宋高僧傳卷十四 唐揚州大雲寺鑒真傳 西峰の按は元亨釋書

小鑑真の傳有り 卷二十九 沙門最澄のゆゑ 卷三十 日本國僧圓

和書部六

和書部六

五十一

同書卷二十二 萬曆三十七年十一月倭并琉球其王ハ虜す云々
同書卷二十五 天啓四年七月紅夷辱國中ハ獲り近き日本倭人
と勾引す云々

卷中之二

兩朝平攘録卷四 倭力の清盛頼朝信長 阿奇支等の事

卷中之三

高自王帝御製文集卷二 日本國王ハ諭す詔 卷十六 設禮部日本國

王ハ問りし文ハ載 西峯云々ハ日本國王ハハ良懷親王の

征夷大將軍ハハ源義滿ガ 卷十九 倭扇行の詩ハ

宋景濂蘿山集卷四 賦日東曲十首ハ

大明一統志卷八十九 日本國沿革風俗山川土産の事

大明會典卷一百二十二 安南日本等の國の使臣驛傳の事

同書卷一百六十 備倭船の事 卷一百七十二の兩卷ハ日本の

紀効新書卷八 卷十八ハ倭寇の事

續說部局十 日本寄語 定州薛俊著

唐詩訓解 秘書日北監ハ日本ハ還ると贈り詩あり

月令廣義卷之一 日本教譯 年紀と一故都ハハ一を去多子

同書卷二 冷暖茶子の事 卷六 日本國ハ藤本吉の事

同書卷二十三 日本國阿蘇山石火起て天ハ接すとの事

劉氏鴻書卷之一 海防倭寇の事 卷八 日本の學徐福ハ始

日本諸葉有く甘草草ハ 卷六十九 倭國求通表文

萬姓統譜卷一百四十 諸方復姓 朝臣日本國使人 卷二十五 辨

賜再日本ハ使す云々

氏族博攷卷之七 氏目 諸方復姓 朝臣

瑯琊代醉編卷之九 尚書全文日本國ハ尚云々

三才圖會地理九卷 補陀落山ハ 往時高麗日本新羅諸國皆此

由て路ヲ取く以て風信ハ候ハ 地理十三卷 日本國圖說

人物十三卷 日本國 珍室二卷 錢圖 外國品 和銅錢 神功錢

倭國錢文日逐喜通空

五燈會元續略卷二上 道成禪師傳 使於日本國奉

同書卷二下 夢窓國師の

釋鑑秘旨古略續集二 日本禪師諱八印原字八古先相州藤氏

同書三 大初禪師日本國の人

夢觀集卷一 勤無逸日本に使すに送る詩 白河関高玉繩下

天上靈梅移北野の句あり

適情録 日本の僧虚中来朝の

玉煙堂唐法書 日本 日本皇子書二枚 西峯云此は白皇子とり

のハ兼明親王かり

医学子綱目卷十九 日本三藏疔瘡方

文房器具箋 潘鐵切しと浙人より屬せしり倭人入性最

巧清倭の伎を習ひ彼よりして十年云々

本草綱目卷八 倭國水精多し 十一卷 倭流黄亦佳かり

同書日卷三十七 琥珀 高麗倭國より出るの色深紅

五雜俎卷之四五七十一 已上六卷をのり日本のみ載

潜確居類書日卷十三 日本ヤマトの譯語を載 卷九十三 日本キリンギン麒麟錦

成貢す

卷中之四

圖書目卷之三より卷之百四十六卷に至るまでの間往々日本のゆ記

す多くハ防倭のゆ

卷中之五

圖書編卷五十 日本國圖 海寇圖說 日本國考あり 卷五十七 日

本島夷入寇の圖あり

卷中之六

武備志卷八十六 影流の目錄をのり辛酉の陣上は威南塘るれ習法

の圖あり 卷二百三十 日本考 卷二百三十一 備前刀のゆあり刀

上は龍巖鑿りひハ八幡大菩薩春日大明神天照皇大神宮と鑿こ
し以のす 卷二百四十六 卷二百二十九等は海外諸國朝鮮考と
卷中之七

續文章正宗卷五 論倭の支り

續資治通鑑綱目卷二十三 元の世祖日本を撃つ 卷二十四 大徳三年

二月僧一山を遣て日本に使者せしむ

大學衍義補卷一百五十五 馭夷狄 日本東海の中を去る

同書卷一百五十六 至元十八年日本に撃つ兵十餘萬海島に死す還る

者僅よ二十人 西峯を還るもの僅よ二十人の十字街元史に曰十萬の

衆還るくは得るもの二十人の十字街元史に曰十萬の

莫青曰吳萬五かり云

聽雨紀談 日本國は真木の尚書何し

五倫書卷二十一 元の世祖日本に伐んと欲する 卷四十二 國

朝の趙秩使以奉し日本に往る

不求人全編卷十三 日本國人物の圖り

自王明世法録卷七十六七十九八十 日本の海防のゆとのす

並陀山志卷二 日本備惠鐔のゆ 卷四 昌國は東控三韓日本

蓮生八代卷八 袖燼は倭人製するもの此は海空二早蓋

同書卷十六 文匣具 倭式鉛を以て口以鉛了もの甚佳なり

事林廣記續集卷三 倭韓栗のゆ

唐詩歸卷九 王維送秘書晁監詩 卷二十四 沈頌金文学子の日

東よ還るを送る詩あり

明詩選卷上 董良史の詩 過橋雲磬天公寺 泊岸風帆日本船

唐類函卷一百十六 倭後漢より通ハりあり

博物典彙卷二十 四夷 日本

音韻字海卷之首 夷字音釋いろは

大明一統賦卷之上 日本國即古之倭奴云

儷語編類卷之七 日本の僧の扁を松送る草莊の詩あり

舟州稿選卷之五 日本國松皮紙と出す
卷中之八

蒼霞草 日本考

國朝獻徵録卷十より卷一百二十までの間四十三卷倭寇の
ゆゑにわづらひくはれ墓誌行状傳など記せり 卷一百二十卷は
日本志あり

登壇必究第六より第三十九までの間六卷倭寇のゆゑに記す
同書第二十三卷 日本國圖は日本愛宕山靈感地藏王の文あり
卷下之一二 以下朝鮮樸述の書あり

東國通鑑 新羅始祖八年 漢甘露四年 倭來て處に冠す
同書卷之二三 倭寇のゆゑ 卷之四 晉建元二年 春二月倭使が新羅
に遣はるゝ婚が請は報せず 卷之七八九 新羅紀文武王十年唐
咸亨元年八月倭國瑞が日本と更自言日出るゝと云ふは近し以
て名しす 卷十より卷五十六までの間二十七卷往く日中と往

復のゆゑ倭寇のゆゑに記せり
卷下之二

三國史記卷一より卷四十五までの間十六卷倭寇のゆゑに記す

三韓詩龜鑑卷之下 密直郭預が感渡海 七言古詩とのす詩中
至元は蒙古日本を侵せしとき高麗はもとて倭に討てしむる
海に渡りしゆゑに記す 一岐日本島名と云ふは

慕齋詩集卷之一二三 日本の僧と贈答の詩あり
慕齋文集卷之三 各對馬主書 復日本國大内殿書事あり
同書卷之四 復日本國王書あり 西峯云これハ足利義晴の書あり

東文選卷之十一十六十七 鄭夢周が使が日本は奉ずる作 崔愷が
日本借題す詩其餘數人の作ものす 卷之二十二二十三二十七
七十九九十九十二三一二一二二二の卷は日本のゆゑに記す
亞日山世稿卷之二 日本のゆゑに記すあり

日本硯石

柿本人丸硯

壬生忠岑硯以下四十六種

卷之二

漢研

進御琴研

類氏研以下四十二種

卷之三

漢研石

六十八種

高氏研譜二十種

茅氏研譜二十三種

附錄 清張山來が研林

○此書和漢の古硯の圖すゝのむくゝ巻首より未上月紫邦彦の序 源元凱の序 寛政七年春 石希聰の自序より 寛政九年四月上木す

集古十種

銅器 印章 硯 樂器

甲冑

馬具

刀劍

弓矢

旌旗

鐘銘

碑銘

扁額

小倉色紙

銅器部

一卷

凡例

一凡鏡鐸西盤係銅器者皆載此集

一凡此集隨得收入是以世次年代皆不能以序
一凡物雖涉偽實有可疑而無的證之可指摘者今且收入以資博覽

畧目録

相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏政子十二手箱中鏡圖

京師大佛殿什物大同秀乃吉公鏡并匣圖

山城國大原古知谷阿弥陀寺什物鏡圖

陸奥國安積郡王宮權現神宝采女所持鏡圖

相模國禪居菴什物大鑑禪師所持鏡圖

尾張國神戶村取堀出鏡圖

大和國奈良道祖神輿鏡圖

伊豫國三島社什物孝謙帝御鏡圖

同天智帝御鏡圖

攝津國長田大神鏡圖

伊勢神宮檜垣丹波守所持鏡圖

和書一覽

越後國魚沼郡松代市所堀出鏡圖
大和國法隆寺藏鏡圖
參河國鳳來寺鑑堂藏鏡圖 十三面
相模國藤澤寺什物照手姫所持鏡圖
豐前國小倉足高山所堀出鏡圖 九面
其餘數十面總計二十餘圖
印章部 四卷 畧目錄

卷之一

天皇御璽 共四
建武之寶
執政官印
典藥寮印
宮内印
雅樂寮印
造平安宮城職印
白土帝官印
神祇官印
左京印
圖書寮印
施藥院印
遣唐使印 共二

兼和年間民部省所用印
卷之二

官印

攝津國印 其餘諸國印
鎮守府印
大和守印
内親王酒人印
足利家印 共二
豐臣木乃次公印
清原經賢印 共三
山北月國印
大和國印
太宰府印
漆上郡印 其餘諸郡印
下野國足利學校印
將軍義仲印
豐太尚印
兼平年間加毛券所用印
金澤文庫印

卷之三

伊勢太神宮印
仁和寺僧綱印
東寺傳法印
北野天滿宮印
造東寺印
西寺目代印
雄德山八幡宮印
弘福寺印 共二
東大寺印 共三

和書部六

十一

大安寺印 百濟寺印 法隆寺印 共二
 西大寺印 比叡寺印 延曆寺印
 因幡國師印 石山寺印 園寺孝謙帝勅作印
 小田原最乘寺道了權現印 高山寺印
 日蓮上人印 安樂壽院印

卷之四

諏訪社印鈕 東寺印鈕 法隆寺印鈕
 佛乘禪師宋朝請來印鈕 共二 伊勢內宮政印櫃
 法隆寺印櫃 烙印 共三

其餘數十顆四卷總計百八十餘圖

古硯部 一卷 畧目錄

大和國吉野山吉水院藏後醍醐天皇御物竹文其至圖
 同竹硯箱圖 同琨玉硯圖
 同國釜口普賢院曾我堂藏千宗易硯圖

同銅雀臺瓦硯圖 同國當麻寺藏松蔭硯并箱圖
 相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏源賴朝公硯箱圖
 山城國土生寺藏士生忠岑硯圖 大和國東大寺藏磁硯圖
 京師東寺藏硯圖 同弘法大師屋宇硯圖 同藏唐本字家製墨圖
 攝津國大坂甘井段堂藏硯圖 大和國在原寺藏在原業平硯箱圖
 其餘數十圖總計三十餘圖

樂器部 三卷 畧目錄

卷之一

大和國信貴山藏二鼓圖 同藏振鼓圖 同藏鞀鼓圖 同藏面鼓圖
 安藝國嚴島藏小櫻笙圖 同代衣圖 大和國法隆寺藏洞簫圖
 同國吉野山藏後醍醐天皇御物二撥九笙圖 同十文字笛并高麗笛圖
 家藏埴能丸圖 大和國法隆寺藏琴圖 同國龍田社藏服鼓圖
 同鞀鞀其至圖 同國東大寺藏古面圖
 山城國本能寺藏時雨箏圖

卷之二

安藝國嚴島明神藏箏圖 同藏舞樂古面圖
相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏舞樂面圖 陸奥國額成就寺藏琵琶圖
大和國法隆寺藏石胴鞆鼓圖 山城國梅宮社人橋本肥後藏笏拍子圖
伊勢太神宮神室茅柱袋圖 南都興福寺藏古面圖
山城國京冰室社藏羅陵王面圖

卷之三

大和國東大寺藏俊乘房金鼓圖 山城國妙覺寺藏二絃圖
陸奥國會津塔寺八幡宮藏漢竹笛圖 同州古屋何某藏四絃圖
大和國東大寺藏伎樂面圖 數三十七 佛工田中内藏丞藏鬼面圖
其餘數十圖總計百二十餘圖

甲冑部 二卷 各目錄

卷之一

備前國邑久郡上寺八幡宮藏佐々木三郎盛久甲冑圖

伊豫國三島社藏源義經朝臣鎧圖 同藏甲冑圖
同藏河野通信鎧袖圖 同藏鍬形圖 源義政公甲冑圖
武藏國御嶽山藏日本武尊甲冑圖

卷之二

山城國藤森社藏類當圖 同籠手圖 同膝當圖 同胫楯圖
同鎧唐櫃圖 大和國興福寺藏源義經朝臣甲冑圖
加賀國江沼郡須輪前村亨大藏安貞盛甲冑圖
伊豫國三島社藏源賴朝公所奉甲冑圖 新羅三郎義光兜圖
安藝國嚴島社藏源義家朝臣甲冑圖 同藏平重盛卿甲冑圖
同藏大内義隆甲冑圖 尾張國海東郡馬島村白山社藏景清甲冑圖

卷之三

大和國吉野山勝手社源義經朝臣甲冑圖
下野國都賀郡小山驛社園山天王寺藏小山下野守兜圖
武藏國荏原郡品川領高輪法藏寺楠正成甲冑圖

攝津國桂尾山勝福寺藏武藏守平知章甲冑圖

同國勝尾寺藏宇津宮賴綱十念兜圖

和泉國北曾根村農家藏北島連甲冑圖

攝津國八部郡農家鷺尾次郎兵衛家藏源義經朝臣所賜藤

威甲冑圖

新田左近衛權少將兼武藏守源義宗朝臣大袖圖

陸奥國石川八幡宮藏源賴光朝臣鎧圖

武藏國江府之田小山龍原寺藏加藤清心冑圖

河內國觀心寺藏楠正成喉輪并腹卷圖

大和國信貴山本覺院藏楠正成兜并片袖圖

出雲國大社藏甲冑圖

其餘數十圖總計五十餘圖

馬具部

二卷

畧目錄

卷之一

古銜圖

大森考七鞞圖

武藏國御嶽山藏鏡鞞圖

河內國錦部郡觀心寺中院藏楠正成鞍圖

源義政公香包鞍鏡圖

相模國鎌倉極樂寺藏大館次郎鞍圖

新井家藏本古鞍圖

甲斐國山梨郡所掘得壺鏡圖

大和國奈良倉院藏藤原藤衡圖

備前國上寺村八幡宮藏佐々木盛細銜圖

卷之二

大和國法隆寺藏壺鏡圖 同國東大寺若宮八幡宮藏移鞍皆具圖

美濃國大井驛長國寺藏根津是行鏡圖 同鞍銜圖

九井某家藏豐臣秀吉古銜圖 陸奥國白川郡大村所掘得轡圖

備前國上寺八幡宮藏佐々木盛綱馬腹帶環圖

伊勢內宮文殿藏古銜圖 伊勢神庫馬具圖 同白馬圖

其餘數十圖總計五十餘圖

刀劔部 二卷 畧目錄

大和國吉野郡賀名生鄉和田村堀源二郎家藏後醍醐天皇御劔圖

飛彈國高山國分寺藏小鳥丸大刀圖 平鞆大刀圖

山城國鞍馬寺藏源義經朝臣太刀圖

伊勢內宮藏依藤太秀鄉切太刀圖

播磨國宍粟郡山崎町平瀨某家藏天國太刀圖

相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏源賴朝卿太刀具尻鞆及弦卷圖

千葉介常胤下鞆圖 筑紫彦山所掘得刀圖 丹波國大江山所得刀圖

源賴義朝臣太刀圖 伊豫國三島社藏平重盛卿太刀圖

那須家藏與市宗高太刀圖 伊豫國三島社藏大森彦七所奉太刀圖

同大塔宮所奉太刀圖 尾張國熱田社藏兵庫鎖太刀圖

源義家朝臣海老鞆卷腰刀圖 相模國箱根權現社藏赤木短刀圖

同藏源賴朝卿所奉太刀圖 同藏嵯峨天皇御劍圖

同藏古太刀圖 伊豫國三島社藏高力左近大夫高長所奉太刀圖

同藏平重衡卿所奉太刀圖 信濃國諏訪社藏細切丸太刀圖

長門國赤間關阿弥陀寺藏安德天皇御劍圖

同藏能登守教經刀圖 攝津國丹生山田農粟花落理左衛門藏天國太刀圖

駿河國富士淺間社藏武田信玄太刀圖 足利家短刀金具圖

京師本能寺藏刀劍圖 近江國竹生鳥社藏依藤太秀鄉所奉太刀圖

武藏國多摩郡御嶽山社藏室壽丸太刀圖 京師六角堂古劍圖

織田信長公腰刀圖 讚岐國楠某家藏楠心成腰刀圖

大和國吉野山櫻本坊藏大和納言殿寄附護摩手刀圖

同藏村上孝四郎鈔圖 山城國本能寺藏大太刀圖

其餘數十圖總計九十餘圖

弓矢部 一卷 畧目錄

攝津國住吉社藏弓并弓囊圖 出雲國大社藏弓圖

尾張國熱田社藏弓圖 相模國鎌倉鶴岡八幡宮藏源賴朝卿弓圖

同藏武田信豐繁藤弓圖 出雲國大社藏矢圖

加賀國江沼郡須輪間村多大社藏實盛表指鉞圖

尾張國熱田八劍宮藏矢圖 同藏畧目錄

近江國佐々木家藏六角義賢鍬圖 攝津國住吉社藏籠圖
 同藏鞞圖 伊豫國三島社藏淺利與市所奉籠圖
 同弦卷圖 尾張國熟田八劔官籠圖 同矢加羅美圖
 伊豫國三島社藏和田小太郎所奉籠圖
 攝津國八部郡農鷲尾次郎兵衛家藏源義經朝臣鞞圖
 同鍬圖 越後國一宮弥彦神社藏鎮西八郎為朝鍬圖
 大和國釜口長岳寺藏能登守教經矢圖
 攝津國住吉社藏鞞圖 同鞞袋圖
 南都東大寺藏竹籠圖 京師荻野某家藏秦川勝胡籠圖
 其餘十餘圖共計三十餘圖
 旌旗部 三卷 畧目錄

卷之一

攝津國天王寺藏貞固親王旗圖 同藏貞保親王旗圖
 同藏平重盛卿旗圖 同藏平行盛旗圖 同藏清經旗圖

同藏能登守教經旗圖 同藏貞平親王旗圖 同藏貞元親王旗圖
 同藏源滿政旗圖

卷之二

大和國吉野山吉水院藏後醍醐天皇御旗圖
 攝津國天王寺藏赤松則祐旗圖 同藏足助次郎重範旗圖
 同藏佐々木四郎高綱旗圖 同藏備後三郎高德旗圖

卷之三

大和國吉野郡賀名生鄉和田村坂源次郎家藏後醍醐天皇所賜
 御旗圖 湯川某家藏大塔宮錦旗圖
 武藏國品川法藏寺藏楠山成旗圖 京師五條八幡宮藏旗圖
 甲斐國山梨郡荻原村雲峰寺藏武田信玄旗圖 二樣
 源義家朝臣旗圖 伊豫國三島社藏旗圖
 其餘數圖共計三十餘圖

鐘銘部 六卷 畧目錄

卷之一

山城國神護寺鐘銘
山城國道澄寺鐘銘

大和國奈良南圓堂銅燈基銘

卷之二

相模國新長谷寺鐘銘
相模國菅根山鐘銘
相模國鎌倉圓覺寺鐘銘

安房國千光山清澄寺鐘銘

卷之三

大和國奈良真言院鐘銘
武藏國豐島郡淺草寺鐘銘

相模國鎌倉巨福山建長寺鐘銘

山城國八幡神宮寺鐘銘

山城國京妙心寺鐘銘

大和國奈良般若寺鐘銘

卷之四

武藏國金澤郡知足山龍華寺鐘銘

陸奥國平泉中尊寺鐘銘

大和國吉野勝手明神古鐘銘

卷之五

山城國大奈原隆隆寺鐘銘

陸奥國平泉毛越寺鐵燈銘

武藏國多摩郡府中六所明神境内鐵佛銘

大和國藥師寺佛背銘

同藥師銅佛光背銘

同陸奥國青柳凌宵寺經筒銘

同國君澤郡增山村益山寺花盤銘

山城國京士生寺經口銘

新刊一覽

卷之六

伊三國走湯山東明寺鐘銘 肥前國平戶觀音院鐘銘
相模國鎌倉鶴岡八幡宮銅燈銘 大和國東大寺燈其基銘
備中國一品古備津宮鐘銘 駿河國巨齋山清見寺鐘銘
大和國東原寺塔堂露盤銘 同國法隆寺銅斛銘 二樣
長持寺閣伽榻銘 宇藝國伊都岐島鐘銘

其餘數十篇總計七十餘篇

碑銘部 七卷 畧目錄

卷之一

大和國藥師寺佛足石碑 陸奥國多賀城碑
大和國益田池碑雷字

卷之二

陸奥國宮城郡松浦碑 同國盤手郡松浦碑
近江國草津驛西南新田村碑 武藏國野火留平林寺碑

大和國吉野山中菅清水碑 同國奈良佐保山御陵碑
大和國奈良招提寺金堂額圖并銘
陸奥國宮城郡信田小太郎館山切山碑
攝津國湊川楠心成碑 山城國宇治橋斷碑
武藏國品川海晏寺北条時賴墓誌
攝津國芦屋村孫九大夫墓誌

卷之三

上野國多胡郡真井村碑 河內國石河郡高屋連故人墓誌
大和國奈良十輪院境内忍海連真食碑
河內國上太子藏聖德太子瑪腦石記

卷之四

同國古市郡駒谷村金剛輪寺境内永平公墓誌
陸奥國宮城郡燕澤村碑 河內國石河郡春日村紀廣地女古墓誌
陸奥國松島御島碑 大和國達磨寺八面碑

新刊一覽

和書部六

七廿

伊豆國柳下郡土肥堀内村萬年山城頭寺實平基誌

卷之五

陸奥國宮城郡南宮村慈雲寺碑 武藏國牛島牛御前社碑

伊豆國和田村伊藤入道墓誌 陸奥國守山大元神社碑

大和國葛下郡馬場村穴虫山所掘出小野伊太弼墓誌

武藏國品川海晏寺二階堂墓誌 近江國愛智郡百濟寺下乘碑

武藏國入間郡久米村將軍塚碑 伊豆國田方郡善名村碑

下総國葛西郡青砥村古城跡碑 紀伊國高野山町石縮圖

卷之六

相模國江島碑 同國鎌倉扇谷海藏寺碑

大和國宇知郡大澤村楊貴氏墓誌 下野國宇都宮清藏寺鐵碑

大和國寧樂佐保山碑 肥後國石敢當碑

山城國京五條八幡宮手水鉢銘 武藏國秩父碑

上野國八幡山碑 同國桐生碑 大和國宇治川磨崖碑

卷之七

僧空海益田池碑 草本真跡

其餘數十篇 總計六十餘篇

扁額部 八卷

扁額廣攬 一卷 共九卷

凡例 四則

一題署之體法起秦漢 本朝名賢親承之 隋唐世有能者是 以

宮殿扁額燃成一玉典刑 但中葉以降 乾綱解紐 宮闈荒廢 諸

公名蹟隨亦散亡 其僅存者 獨書家者流 摸本耳 今一據之 編

入其在佛閣神祠者 以僻遠免兵火 真蹟往往見存 亦就 摸

取原本 編入

一原字狹少 紙冊可容者 皆全依原本 其字體長大者 倣陳繹

曾八面九宮圖法 縮寫收入 若欲復舊觀 照線方放大 則可

以不謬 毫末矣

縮寫割線圖

田各目錄

卷之一

觀智院僧心賢賀真蹟百壽

後小松院宸翰京師金閣寺額究竟頂

後土御門院宸翰京師吉田社額

元本八神殿

世尊寺大納言行成卿真蹟清水寺

嵯峨天白王宸翰上品蓮華寺

同上京師吉田社額

同上上京辨天額兩室

後柏原院宸翰嵯峨二尊院額

後奈良院宸翰知恩教院

花園院宸翰京師心法山妙心寺額

青蓮院宮尊祐法親王真蹟新宮

淳和入白王宸翰甲斐國山梨郡東光寺村日輪法城寺額

日本最上西太神宮

清水谷大納言實秋卿真蹟京師吉田社樓門額

日本最上西太神宮

後花園院宸翰相模國鎌倉光明寺山門額

天照山

持明院權中納言基輔卿真蹟江戶聖堂仰高門額

仰高

同上入德門額

同上聖堂額香壇

後陽成院宸翰紀伊國高野山興山寺額

興山寺

弘法大師真蹟大和國法隆寺塔頭西園院藏一切經藏

伏見院宸翰京師花園妙心寺經藏額

毘盧藏

卷之二

靈元院宸翰江戶東叡山中堂額

應天門

同上會昌門

世尊寺大納言行成卿真蹟

清水寺

同上淨花院

法華三昧堂

同上

救世堂

同上

同上京師西山天安寺額

參議佐理卿真蹟

篤音院

同上大隅國八幡宮額

小野道風朝臣真蹟

靈山華嚴院

同上攝津國天王寺額

世尊寺定成朝臣真蹟

圓照

青蓮院尊純法親王真蹟相模國鎌倉鶴岡若宮權現額

若宮大權現

龍池院二品尊朝法親王真蹟讚岐國大水主社額

二位大水主大明神

弘法大師真蹟大和國金峯山第四鳥居額

妙覺門

卷之三

和書部六

小野道風朝臣真蹟參河國瀧山寺仁王門額 瀧山寺

同上播磨國極樂山淨土寺額 淨土堂 同上嵯峨青龍寺釋迦堂樓門額 愛宕山

同上山城國乙訓郡西園向日社額 一位向日大明神

同上同國山崎八王子社額 天神八王子 同上筑前國太宰府觀世音寺額 觀世音寺

同上尾張國熱田社東門額 春殿門 同上天和國奈良長樂寺額 長樂寺

同上越後國柏崎永德寺額 永德寺 同上讚岐國白峰領證寺額 領證寺

同上天和國金峯山第三鳥居額 寺覺門

世尊寺大納言行成卿真蹟 一位高野大明神 東書寬弘六年三月二十八日書之

同上山城國石清水八幡宮額 雜宮八幡 世尊寺後三位行能卿真蹟石山寺額 石山寺

世尊寺二位經朝卿真蹟武藏國多磨郡谷保村天神額 天滿宮

世尊寺三位行季卿真蹟山城國梅津地藏堂額 引格寺

弘法大師真蹟京師東寺什物 幡宮

世尊寺從二位經尹卿真蹟武藏國瀬戸大山積社額 一位大山積神宮

後鳥羽院宸翰筑前國博多聖福寺額 杖葉最初禪窟

傳教大師真蹟 南無山王廿一社 後小松院宸翰相模國圓覺寺額 圓覺寺

後土御門院宸翰京師大德寺方丈雲門菴額 雲光

弘法大師真蹟大和國金峯山第一鳥居額 卷心門

卷之四

神祇伯後二位卜部兼雄卿真蹟播磨國中市郡天神鳥居額 天滿宮

藤木甲斐守敦直真蹟京極宮御領內下桂村御靈宮額 御靈宮

中御門前大納言宣胤卿真蹟近江國愛智郡大社額 一位大社 聖滿大明神

拾遺宰相入道常覺真蹟河內國古市白鳥社額 白鳥大明神

船橋經賢入道常覺真蹟河內國觀心寺額 觀心寺

高野山沙門悔焉真蹟 天照皇太神宮 瀧本坊昭乘真蹟 月華高

妙法院二品亮然法親王真蹟 山王天 弘法大師真蹟信濃國善光寺額 善光寺

曼珠院二品良尚法親王真蹟播磨國印南郡曾根村天神額 天滿宮

弘法大師真蹟京師東山靈山國阿堂額 靈鷲山

聖護院宮道晃法親王真蹟山城國愛宕郡日吉坂南新熊野社額 新熊野社

和書部六

和書部六

七十三

野大權現

仁和寺覺深法親王真蹟武藏國豐島郡王子社額 唯一王子宮

崇保院公寬法親王真蹟江戶下谷心法院中鳥居額 二位稻荷大明神

蓮華光院大僧心道恕真蹟同上拜殿額 稻荷大明神

聖者不詳大和國長谷寺鳥居額 功德成就

弘法大師真蹟大和國大峯泷川龍泉寺額 龍泉寺 世官公真蹟越後國松山農家藏

大職冠鎌足公真蹟 高林寺 世官公真蹟越後國松山農家藏

近衛大相國家興公真蹟江戶小石川牛天神鳥居額 天滿宮

堀川左大臣俊房公真蹟山城國宇治郡平等院樓門額 平等院

卷之五

光明皇后宸翰參河國鳳來寺額 後水尾院宸翰江戶東叡山寬永寺額

花園院宸翰相模國鎌倉圓覺寺山門額 圓覺興聖禪寺

醍醐天皇宸翰丹後國天橋之智恩寺額

聖武天皇宸翰尾張國一宮額 真清田大神

參議佐理卿真蹟筑後國一宮鳥居額 高良玉垂宮

石川李亮賴直真蹟武藏國橘郡川崎平間寺大師堂額 平間寺

京極黃門定家卿真蹟大和國吉野郡川上莊多古村秋光山心月院 藏時雨亭 後柏原院宸翰京師嵯峨二尊院額

大覺寺宮寬深大僧心真蹟但馬國妙見山帝釋寺額

弘法大師真蹟下野國日光山瀧尾社額 禮中宮

持明院中納言基雄卿真蹟陸奥國鹽竈社額 左宮 別宮 右宮

後光嚴院宸翰相模國鎌倉圓覺寺佛殿額 大光明室殿

持明院中納言基雄卿真蹟播磨國高砂社額

在崇上人真蹟相模國鎌倉光明寺額 勅額所

宸翰不詳但馬國一宮鳥居額 二位勳十二等采女大明神

小野道風朝臣真蹟丹後國天橋立籠社額 三位籠之大明神

智覺禪師真蹟相模國新井庵庵堂額 琮王殿

參議佐理卿真蹟伊豫國之島社額 日本總鎮守大山積大明神

小野道風朝臣真蹟丹波國井原石合龍寺額
 後奈良院宸翰京師智恩院本堂額 大谷寺
 九條准三后尚實公真蹟遠江國秋葉山鳥居額 權業大權現
 隨宣樂院一品公遵法親王真蹟 天淵 裏書文明五年
 後西院宸翰京師泉涌寺藏室明 小野道風朝臣真蹟 三位勳公高野大
 弘法大師宸蹟大和國法華寺村海龍王寺額
 後奈良院宸翰安藝國嚴島社鳥居額 伊都岐島大明神
 張即之真蹟京師泉涌寺額 裏書七行
 玄宗皇帝宸翰 補陀海山圓通室閣 裏書六行
 持明院權大納言基時卿真蹟 國江島石本院額
 釋自休真蹟安藝國嚴島經藏額 轉法輪
 卷之七
 弘法大師真蹟 真言院
 筆者不詳 建春門
 同上 宜陽門
 同上 承明門

弘法大師真蹟長樂門
 筆者不詳 仁壽殿 同上 承香殿
 同上 紫宸殿 同上 春興殿
 同上 宣秋門 同上 內衙門
 堀川左大臣俊房公真蹟明義門 筆者不詳 左掖門
 同上 建禮門 弘法大師真蹟常樂門 筆者不詳 弘徽殿
 同上 温明殿 同上 常寧殿 同上 教書殿
 同上 清涼殿 同上 後涼殿 弘法大師真蹟 貞觀殿
 靈元院宸翰京師西加茂靈源寺額 弘法大師真蹟 菩提門
 藤木甲斐守敦直真蹟不老門 弘法大師真蹟 南登門
 佛光禪師真蹟相模國鎌倉建長寺関山塔外門額 高島
 張即之真蹟同圓覺寺浴室額 同上 上方丈額
 夢窓國師真蹟同上祈禱殿西面額 祈禱 修心
 土御門院宸翰相模國江島辨天宮額 大辨才天女
 雲出真蹟同國鎌倉建長寺関山塔中門額 西來卷

宸翰不詳同上佛殿額 祈禱

龜山院宸翰同稱名寺八幡宮額

竹西真蹟同建長寺東門額 海東法窟 東書 崇禎元年十月 竹西書

筆者同上同西門額 天下禪林 裏書同上

筆者不詳同山門額 建長興國禪寺 或云宸翰或云宋子昂書也

蘭溪禪師真蹟同常樂寺文殊堂額 秋虹

筆者不詳同圓覺寺祖塔門額 萬年山

同上同建長寺總門額 巨福山 或云趙子昂又云寧一山

無準和尚真蹟同圓覺寺禪堂額 蓮佛場

佛光禪師真蹟同常樂寺方丈額 圓鑑

從三位源氏滿卿真蹟同圓覺寺祖塔額 常照

宸翰不詳山城國長谷村解脫寺額 八鹽山解脫寺 此額今在三井寺

參議佐理卿真蹟京師北山名倉大雲寺觀立月堂額 大雲寺

宸翰不詳安藝國括言額寺本堂額 或云天智帝宸翰

後水尾院宸翰山城國幡板圓通寺藏 大悲

宸翰同上 圓通

宸翰不詳陸奥國白川正雲山金勝寺 祈禱 西而額

聖護院道澄准后真蹟 稱名院

後光嚴院宸翰丹波國神尾山金輪寺額

卷之八

昭高院直見法親王真蹟京師祇園社鳥居額 感神院

室鏡寺宮真蹟長門國阿武郡秋法光院金毗羅堂額 金毗羅大權現

後水尾院宸翰京師相國寺阿山塔額 圓明

仁和寺覺深法親王真蹟陸奥國笠島道祖神長所額 二位道祖神

最上乘院一品公法親王真蹟下野國日光山男體權現額 男體大權現

神道長心二位卜部李兼卿真蹟武藏國久良郡金澤瀨戶三島明神額

清和天皇宸翰京師栗田口御日山太神宮額 日向宮

龜山院宸翰下總國香取郡香取新福寺額 香取新福寺

弘法大師真蹟伊豫國古三津村儀光寺額 真隆山

本寺三錫真蹟武藏國中鄉多田藥師額 玉島山 裏書 朝鮮國雪月堂

清和天皇宸翰攝津國勝尾寺額

十のし

花押藪

七卷

丸山可澄

凡例、凡此書上天子より下連歌師、類かちち部、五
と、のく年代、以て次第、或ハ一家同部の者ハ年代、拘らず
鮮、か、これ、以て観覧、使す、凡此書姓名の上、旁、其
家、親、を註す、下、其父の名、及其官位、年、を註す、以て考證、使す
○凡此書、載、し、る、の、花押、皆、其、真跡、と、臨す、り、ハ、傳、り、り、
、其、原、が、未、歴、り、疑、似、ハ、辨、ら、る、もの、なり、切、向、ハ、一、本、を
、刺、す、名、の、け、判、書、し、り、其、載、し、る、皆、中、古、将、士、の、花押、なり、今、真
、點、以、て、これ、を、辨、別、す、其、状、皆、異、なり、蓋、輕、薄、之、徒、巧、偽、を、作
、以て俗眼、を眩、す、の、今、こゝ、取、す、○凡此書、載、し、る、
、花押、は、多、く、取、出、れ、註、す、間、所、出、れ、註、せ、る、もの、あり、これ、海
、内、家、に、貯、へ、る、蓄、もの、なり、○凡釋、家、ハ、官、の、有、無、を、辨
、せ、ず、年、代、を、以て、次第、に、か、ず、法、親、主、の、加、さ、ハ、別、釋、家、より、只、也

衆族、混同、す、下、す、れ、親王、の、末、附、し、標、し、け、親、之、
り、○卷首、漢文、は、自序、ハ、夫、文、書、者、事、之、左、驗、し、花押、ハ、此、文
書、の、左、驗、なり、可澄、君、命、が、奉、り、古今、の、花押、を、輯、む、七
卷、と、す、名、づ、け、花押藪、とい、凡、古今、の、文、書、日、多、く、花押、と、
名、氏、の、此、書、毎、段、其、姓名、を、標、し、り、官、位、を、註、す、
宣、花押、の、左、驗、なり、と、ん、や、元、祿、之、年、歲、次、庚、午、六、月、日、常、州、水
戸、府、丸、山、可、澄、存

- 卷第一 天子 後深草帝より 後水尾帝に至る 二十人
- 親王 惟康親王より 尊邦親王に至る 十二人 法親王 守覚法親王より 道見法親王に至る 二十一人 執柄 藤原良経より
- 藤原康道より 二十人 大臣 平清盛より 藤原教平に至る 二十四人 贈大臣 源尊氏より 藤原晴豊に至る 八人
- 卷第二 大納言 藤原行成より 藤原兼賢に至る 四十一人 贈大納言 藤原為之 源廣忠 二人 中納言 大江匡房より

源賴房より三十一人 贈中納言 藤原長政 一人 参議
藤原佐理より源忠昌より三十一人 二位三位 源直義より
源忠吉より三十一人 十四人

- 卷茅三 四位 源義家より 大江尚政より 百二十一人
- 卷茅四 五位 源義國より 平堅盛より 百四十五人
- 卷茅五 五位 源元常より 藤原政一より 百三十三人
- 卷茅六 無官位 平實平より 平一成より 五十七人
- 卷茅七 釋家 良忍より 日忠より 九十九人

連歌師 宗祇より 溝村より 九人

續花押藪

七卷 同上

卷首自序云凡天下之事此二感行すはすれり彼二應行すは頭
の教りしめ期すべしすはすれり感應の理いすべしめりしめり
ふりす可澄齋は 義公の命に奉りて花押藪を撰す時江
帥匡房の押字が傳へ示すべしめりしめり然もも旁他の證なり真

質辨すべしめりしめりや今と懸りて六百餘禩なん後人の偽造
りしめりしめりしめりや夫江帥ハ一代乃偉人たよく其押字を
疑へきは以てこれに棄つてはすれりしめりしめり惜むべし
む以て愛と難助と割りてしめりしめりしめり前編に收
り江帥及小槻師經連署の牒なり玉匣蓋に得疑惑氷の
釋ぬえのしめりしめり前編に已行成佐理の二點を收むしめり直風所
獲す常々二點の一作欠くは憾む今たよく求めりしめり既江
帥が疑く師經を獲りし二點を令ぐせんか欲しめりしめり
風をたしめり蓋精誠の感下しめりしめり葉公龍に致すの比於戲古
の花押何れ此より止らんや同古押字にんしめりしめりも姓名家系考
つしめりしめりしめりしめり可澄老と思疾と思ひしめりしめり
多きれ貪く歳と玩ひ日と愒んや謹ぶ 義公の遺意を遵く
いしめり微力が竭すの書成て割削を投して以て其弊を絶

と徴するものハ押なり其庶乎幾揚々編成ハ則亦致古の一端
 系年序正疑相錯純駁相競其の史の取
 取て意然るれ速むるは史の取
 の筆記るれ偏傍點畫の忽々史の讀妙訣なり
 蓋極めく古書の獲りて往蹟の尚ふるは今其押所觀
 其人の想ひ其名は聞く其実を繹めりて偏傍點畫の比
 則此亦以て史の徴す符契なり古
 遊階梯と云ふく彼幸不幸者の端由て之を往
 これ其貴族者に啓セハ其統之ある領す一時正徳未
 歳冬至日洛陽松崎祐之江府芝濱の邸舎に書す
 新編古押譜篇目

卷之一上 天子 龜山院 後小松院 二人 親王 榮仁
 親王 一人 源氏 定具より 土岐政房に至る 八十四人

卷之一下 嚴松頼宥より後藤直風に至る 九十六人 附押六頁
 姓名或ハ曆號或ハ官署明證有て世系家稱等いさ勘へざるの遺も可惜
 故ハ毎氏の下ハ附收一以て後学の墓補と俟てこれと做へ

卷之二 平氏 清盛より岡本重政に至る 五十二人 附押四頁

卷之三 藤原氏 成範より片倉景綱に至る 九十四人 附押
 六頁

卷之四 橘氏 橘正儀より山中長俊に至る 六人 高階氏
 泰経より大谷吉繼に至る 六人 菅原氏 前田利長 堀秀政
 二人 大江氏 匡房より毛利秀頼に至る 六人 附押一頁
 清原氏 清元定清貞敏 二人 紀氏 浦上祐之より堀田
 心信に至る 四人 中原氏 親能より攝津之親に至る 三人
 附押二頁 三善氏 飯尾之種より布施公雄に至る 十六人
 丹治氏 丹治宗行 青木一重 二人 越智氏 稻葉貞通
 一柳直盛 二人 大中臣氏 奥田貞長 奥田家次 二人

中臣氏 藤堂家忠 一人 賀茂氏 氏久 一人 大神氏
 羽田心親 一人 滋野氏 直田昌幸 一人 宮道氏 嵯川
 親孝 一人 日下部氏 朝倉教景 一人 八木心信 一人 七人
 三宅氏 浮田直家 一人 豐臣氏 木下秀吉 一人 木下重
 堅 一人 秦氏 秦久弘 長曾我部元親 二人
 多良氏 大内弘世 一人 山口心弘 一人 八人
 卷之五 諸氏 須賀清方 一人 犬塚家續 一人 百十一人
 卷之六 雜纂 得名并官署者 左衛門尉家頼 一人 民部少輔
 秀清 一人 得名者 親宣 一人 秀乃雄 一人 二十五人
 得別號者 行圓 一人 如雪 一人 十人 得家號官署者
 乙部勘解由 一人 種村薩摩守 一人 三人 得官署者
 丹波守 一人 右兵衛尉 一人 二十八人 附押十四頁 釋氏
 惠鎮 等緣 二人 心徳丙申六月刻
 古今茶人花押藪 一卷

此書作者如詳しむと古今茶人東山殿より千宗守に至るまで八十人
 の花押ありしとありし傳附す又珠光より三谷丹下に至るまで
 五十四人の花押ありしとありし者し標ししとありし傳附す
 未だ抗茶記附す延享三年素清假字の序より同年十月刻
 萬寶全書 十三卷 菊本嘉保

卷之一 本朝西印傳上 名畫上代より僧宗仙に至る百二十五人の傳
 并し印文ありし者 卷之二 同中 雪舟より桃林に至る百十二人
 卷之三 同下 専門家狩野心信より雪山に至る七十三人 雜傳 尊信
 より李欽に至る六十四人 狩野家累世畫法 繪具題名
 元禄癸酉末子久菊本幸甫齋跋
 卷之四 唐繪畫印傳全 唐繪畫高より鄭澤に至る百七十八人
 卷之五 和漢墨跡印畫全 隆巖溪より黙菴に至る八十八人
 本朝古筆諸流目錄全 大師流より傳内流に至る二十八家
 古來流行御手鑑目錄全 切百三十五 短冊六百十六 慶安四年

古華菴真書より右者寛永之頃之代付也

卷之六 和漢名物茶入扇衛目錄上 故家名器正圖 四十七品

瀬戸物唐物諸手新竈扇衛口元手より拳底手に至る六十三種

卷之七 同下 唐物の茄子より茶向屋焼に至る五十五種

續編 思川手より鬼四郎焼に至る廿六種 糸切の圖 土楽

竈所 茶入挽家の圖并挽物茶入 真書より元禄七甲戌年孟春

吉辰浪華軒生綱干氏某輯録

卷之八 和漢諸道具見知抄全 古今焼物諸國出所 唐物渡の

次第 古器名物類卅八品各目 真書より右和漢道具の一書百八

一御粗存せし者これよりい下もいさごころく備らす今幸て

浪華の所生綱干氏某世に秘すところの全かりぬれより強

記これに求め附會し以て略略補ひ即目圖解と全備

し様は鏤しものあがり元禄七甲戌孟春吉辰

卷之九 和漢古今宝銭圖全 古今和銭 二十七品 三才圖會小

窓別記半所載銭 九品 古銭圖 三百餘品

卷之十 古今銘書合類大全上 番銀治次第より諸銀治系圖に至

十三條 銀治諸國總目錄 國分諸銀治秘談山城物より大和物に至

卷之十一 同中 諸銀治國目錄 國分銘書相州物より和泉物に至

卷之十二 同下 國分銘書紀州物より若狹物に至る 雜部 三銘

國不知 二銘 先書系圖秘談抄真書 秘傳抄真書 目録書

真書 及び付心形像真書 己上四部書共二慶長拾陸年三月十二

日の真書書かん

卷之十三 彫物日利彩金抄全 後藤氏系圖 彫物代付目錄

彫物見分様のより 紋畫のより 諸國鐔のより 柄鞆較のより

甲泥鑊のより 享保三年六月刻

古今名物類聚 初編 七卷 陶齋尚古老人

初編中興茶入部 五卷 大名物茶入部 二卷 共七卷より

凡例より凡名物稱すハ慈照相公茶道器好せしハ東山の別

卷之五 破風
 卷之六 大名物 唐物
 卷之七 古瀬戸

同

卷之一 茶入 後室 國焼
 卷之二 天目 茶碗
 卷之三 樂燒茶碗
 卷之四 雜記 茶搦 花入 茶箱 壺
 卷之五 同 水指 釜 碗

同

卷之一 茶入 藤四郎 金華山 破風
 卷之二 同 唐物 古瀬戸 春慶
 卷之三 掛物 歌之物 小倉色紙 墨跡
 卷之四 香爐 墨 盆 香合 瀧本坊七種名物

同

卷之一 四編 綴子 金襴 二卷
 卷之二 同上 間道 雜載

古

寛政三年辛亥冬刻
 錦繡譜 写本 一卷
 綴子 金襴 銀襴 間道 紗金 印金 風通 海氣 等々の類と
 りらちて地組 換様 紙つらひ 等々の類と
 江田世茶の印金 考らる

和

漢書書畫一覽 一卷
 凡例云書畫一覽原刻明和八年公布す今原刻の訛誤を補正し
 新撰の二字紙冠して新製東洋書すこれ古今諸名家の履歷
 得く詳なりしもの或は其地方より他邦に傳へて
 遺脱すものあるを先此上本に補すものハ采覧の君子の刪訂訂と
 俟たり ○原刻本邦の書家ハ三筆三跡と有り 漢ハ二玉と録せし
 畫ハ却て雪舟古法眼と脱せしもの撰次其所とけり 諸回海と
 多し今蒐收す 斯大抵東山殿時代の前後より 昭代の當今より

拾葉集の載りゆり

一卷

此書は保四年陸州侯武州に作られ大追物語に興行せしむる次第
に林春齋の筆記に載りしものなり

本朝西傳

四卷

狩野水納

本朝上古より西來西名高き人の傳に漢文を以てし卷末は掛
物襍装の寸法故實並に題目に漢文を以てし卷首は水
納の自序あり

本朝書目録

写本

一卷

大外記業忠

俗に御室書籍目録と稱す大外記業忠に於て纂すものなり○卷
首の目録は日本書籍物目録と云ふ其部は

- 神事 帝紀 公事 政要 格式 氏族 地理 類聚
- 字韻 詩家 和歌 和漢 管絃 戲書 陰陽 人傳
- 官位 雜い 雜鈔 假名 已上二十一篇なり

日本書目考

一卷

林道春

○奥書に以て和寺宮本書目之 普廣院被尋之時注文を以て又此抄入
道大納言實冬卿密に所借賜之本也 永仁二年八月四日書目考之師名在
判○一本此書の卷末に諸家名記一卷に附すものなり記録の目録に
李部王記より嚴記よりして凡七十二部と分けたり其人の官
位姓名はあり

經典題説

一卷

同上

經書の名に考へ其書の大意を記す和書の概なりと云ふなり
も日本書目考と合刻すものなり

和板書籍考

- 卷之一 神書
- 卷之二 儒書
- 卷之三 武書
- 卷之四 史傳雜記
- 卷之五 醫書
- 卷之六 諸子百家
- 十卷 五本 幸島宗意

卷之七 詩文尺牘 卷之八 和歌 卷之九 和字諸書
卷之十 字書法帖

○此書のあつてゝ、和漢の書籍慶長年中より元禄年中つゞき、
邦々刊行するもの數百部をのり、作者卷數大意紙片假字つゞき、
元禄十五年壬午三月上木す

辨 疑書目録

三卷 中村富平

卷之上 同音書目 同名書目 兩名書目 古今書目 略名書目

讀曲書目

卷之中 植字書目 足利書目 落卷書目 落紙書目 本朝作

者書目 有名未出書目

卷之下 名數書目 類書書目 書字書目

○凡例、此辨疑書目録は著して、和漢書籍の向々ハ混淆錯乱
一一辨別せらるゝためなり、因、博く和漢の書籍を索摭し、
題字の同異混乱を、辨ずべきものハ、今、つゞき、これハ辨ずべき

書肆の兎草、これ、因、人の求む應、て過、てれ、め、
く、欲、す、の、又、凡、書、名、ハ、編、次、し、て、代、以、て、前、後、せ、
内外、似、く、條、列、せ、し、唯、其、類、ハ、觸、覽、し、た、り、何、ん、の、あ、り、
小、出、す、同、音、書、目、ハ、た、つ、と、五、經、基、經、ハ、類、の、如、き、同、音、異、義、或、ハ、五、位、圖、
五、音、圖、の、ご、と、音、相、近、し、混、じ、や、す、の、し、又、文、字、今、く、同、じ、
き、の、の、り、因、く、同、名、書、目、ハ、た、つ、と、混、じ、ら、れ、
加、損、し、る、別、一、や、す、の、の、り、各、響、集、一、寂、照、堂、各、響、集、の、
如、き、これ、が、り、而、も、今、同、名、書、中、に、入、る、と、世、に、ハ、田、谷、稱、し、て、兩、
書、混、淆、す、の、類、す、れ、り、次、ハ、兩、名、書、目、ハ、一、本、二、名、或、
ハ、二、名、兼、稱、す、の、ハ、集、む、取、分、韻、略、を、二、重、韻、と、呼、ぶ、の、如、き、
かり、又、古、今、書、銘、の、變、改、せ、し、知、ず、ん、を、り、
き、今、改、め、く、太子、傳、鼓、吹、の、
す、故、ハ、古、今、書、目、の、一、條、に、入、る、こ、と、
新、校、書、目、録、ハ、本、名、と、し、て、板、行、せ、し、

らるる書店に扱ひ求むんと欲すれども得ずるは自他の類に
ナリ故に今其一條に録し之の書目はのす 又ニ植字本足利本
落卷本落紙本書字本等々至るは予が詳なよりしるは
て此らハ脱誤多しんぬい其他の書目も如何る失考差謬ありと
しるぬん同志の人より漏れぬ補ひ誤れぬをいしは幸甚
しん〇此書片假字と以て注釋す宝永六年十一月富平漢字子の
自序より同七年庚寅よ未す

書籍名数

卷之上 自一部至四部 卷之中 自五部至十部 卷之下
自十一部至二十部

二卷 中村治重

〇此書和漢書籍の標題教字に係るもの纂めたるもの名に
よる下平安の書肆臨泉堂中村百川治重が著すものなり〇天明辛丑
初夏蘊古堂主人漢字の序字水甲子冬澤田重淵漢字の跋より大
明辛丑の秋よ未す

合類書目録大全 十二卷

本朝の書目録に及ばず其始とありて夢窓國師多し佛書詩
集等が板小刻にして其が小弟子妙葩が跋ありて又高師直が板行せし
佛書小すれりらゆき又角倉子市太秦は佛史記及證の如し
開板せし近世刻板は慶長の末に庭訓即用集が少く有りて寛永
六年のいりより多かりたりと此合類目録は夢窓國師時代より明和の
頃よりしるは其類に於て遍るこれよめせとのく巻に他者や附す
子集 國史 神書 有職書 儒書 經書 諸子
丑集 文集 書翰書 詩集 詩話 聯句書
寅集 歴史 傳記 故事書 雜書 字書 韻書 印譜
卯集 醫書 外科書 鍼灸書
辰集 諸宗經 未書類 諸宗折經 僧傳 天台宗書 日蓮宗書
巳集 俱全宗書 律宗書 華嚴宗書 法相宗書 真言宗書
午集 禪宗書 語錄類 植字板語錄類

小至るまで一千餘年が間漢土ハ漢魏より今の清朝の乾隆年中とい
うまで二千餘年が向の人々著述の書目ヲ奉
卷之一 卷之二 皇國撰述書

上古部 養老神龜の頃より 治建仁の頃に至る
中古部 元久建永の頃より 貞治應和の頃に至る
近代部 明德應永の頃より 天文文祿の頃に至る
當時部 慶長元和の頃より 寛政年中に至る

卷之三 卷之四 漢土撰述書

上古部 漢文帝の時より 隋煬帝の大業年中に至る
中古部 唐太宗の貞觀の頃より 元文宗の至正の頃に至る
近代部 明の太祖の洪武の頃より 思宗の崇禎の頃に至る
當時部 清の世祖の順治の頃より 弘曆の乾隆年中に至る

○上より下までの代より著者ハ配當して其人々姓名字が号と
あり著述の書の標題卷數をあげ字中ト唐本のものあり

標題のしりは 圈點ヲ附す 〇巻首は 目錄ハしり 作者數百くの
姓名ハしり 其中ハ 神学家 儒学家 佛学家 國学家 数学
家 連歌家 醫學家 物産家 天文家 兵学家 曆学家
雜学家 詩文家 書畫家 印刻家 小説家 俳諧家等ハ
く備ふり 其書體の大概ハ左ハあり
皇國近代部の中

林道春
羅山游獵集 百卷
羅山文集 六十卷
夕顏卷夜話 十二卷
神社考 三卷
其餘數十部總計百五十餘部
七書鈔 四十卷
土佐記附注 二卷

物茂卿
論語微 十卷
明律國字解 三十卷
滿文考 一卷
樂制篇 一卷
鈐錄 二十卷
南留別志 五卷
總計四十餘部

山崎敬義

文會筆錄二十九卷

大學啓蒙集七卷

總計五十餘部

釋契沖

萬葉代匠記三十卷

古語拾遺抄二卷

總計二十餘部

北村季吟

湖月抄二十卷

山乃井五卷

總計三十餘部

賀茂夏淵

萬葉考二十卷

垂加文集八卷

日本書紀註十五卷

垂加文集續五卷

神代風葉集九卷

古今餘材抄二十卷

漫吟集二十卷

類字日瑛補翼抄八卷

河社五卷

萬葉拾穗抄三十卷

續山の井七卷

八代集抄百八卷五本

誹諧合六卷

冠辭考五卷

勢語古意七卷

くひまがひ 五卷

總計三十餘部

漢土近代部の中

王世貞

弇州四部稿正集百七

奕問一卷

史乘考語十一卷

總計二十餘部

陳繼儒

寶齋堂心秘笈及三十六卷

枕談一卷

香案牘一卷

總計三十餘部

漢土當時部

くひまがひ 一卷

縣居歌集一卷

同續集二百七卷

宛委餘編十六卷

文章九命一卷

同別集百卷

短長一卷

軋不軋錄一卷

廣秘笈八十五卷

書畫金湯一卷

長者言一卷

普秘笈十七卷

君年碑錄一卷

陳眉公十集六十二卷

康熙帝

佩文齋韻府 二百本

廣群芳譜 三十二卷

淵鑑類函 四百五十卷

全唐詩 九百卷

康熙字典 四十卷

欽定四經 百五卷

三禮義疏 百七十八卷

欽定四書文 二十卷

十五省通志 七百七十卷

總計二十餘部

李漁

笠翁一家言 六卷

閒情偶寄 八卷

連城壁 十二卷

連城壁後編 四卷

十二樓 十二卷

芥子園畫傳 十二卷

總計二十餘部

此例の外は和漢ともに一人一書の著述又關名の書ハ卷末別目録河三類に収む

世俗淺深秘抄 寫本 二卷

上卷 上皇御幸時殿上人必不可依位階事 以下百四十六條
下卷 朝觀行幸上皇御袍色事 上下百三十六條

此外菩提院入道關白乃徳等撰載

奥書云々右世俗淺深秘抄者以藤兼康卿古本卷物不違一字書

寫令一枝畢 宝永茅六曆仲春 兵部卿親王 京極一宮

海人藻芥 寫本 一卷

僧心宣守

此書ハ中御門中納言宣方卿の御子惠命院僧心宣守乃作

雜記此故実なほ云々○年山寺園は強飯姫飯の事

此書引て曰く家御膳飯者強飯也執柄家寺如此姫飯全

日各儀也但人々依好惡用之強飯時飯湯也而近代姫飯時

ゆやうのせし召不吐理也

閑居友 寫本 二卷

本朝書籍目錄此書ハ慈鎮の作とす按ずると年山寺園

曰く奥沖のゆやうの閑居の友とす書も慈鎮の作とす以て

中いゝ入宋のゆやうの松尾證月房慶波上人作とす此係

隆つゝの餞別の歌とす入宋於れ又明惠上人とす

群書一覽

和書部六

九十六

明惠傳る又末の集入つて僧の道心者く人長瀬子こころ
こころもかれはさしてわねりしと誦せしるも閑居の友よりおやひ

語園

二卷 一條兼良公

漢土の故事の諸書より採りてくこれに譯してたる者なり卷末
に桃李老人撰とありしを桃李老人の兼良公の別号なり
寛永四年刻

新語園

十卷 了意

本朝語園

十卷

兼良公の語園よりこの漢土の故事の片假字よりあせり
此書作者いふつぎりなきも兼良公の語園なりしり
本朝の故事の諸書より採りてくこれに譯してたる者なり
譯せりこれに卷末にありしを桃李老人の別号なり
卷之一 天地 時令 帝王 官姓 卷之二 人臣 孝子
卷之三 和歌 卷之四 詩文 才智

卷之五 法令 書籍 書畫 雜藝
卷之六 武勇 逆臣 強力 卷之七 醫陰 石相

管絃 雜事 隠幽 卷之八 好色 魚常
卷之九 飛仙 釋文 卷之十 天地 神祇 神感 託宣

祭祀 崇谷 怪異 妖靈 獸蟲 草木 器物
毎條の下は兼良公の語園よりあせりして引書の名ありしをせり
年正月孤山居士の序あり同年二月上木十

籟 竹籃 二卷

一名金鳥玉兔集といふ安部晴明の作といひ付て本を眞傳
とせず陸陽家の書といふ宅相のゆかりありしり此書の末書十餘
部あり

白玉和通曆 三卷 中根元桂

多田義俊といふ日本古来曆学をくくし故に千支も何も遠
かしくころりしと末代の学者むくはり記すといふ今に曆よりし

群書一覽 和書部六

親房卿白川結城親朝贈らんとす其自筆の写しなり其忠義の
實此に以てんべきこと又其書の裏書興國元年己卯の
又同しき五年癸未に至る五年乃同関東宮方の合戦也乃
事跡を記せりなりと実録のつづきなり一本此裏書の次は北
畠家の系図なりけり延元二年九月宗良親王となりしは宗良親
王の母叔遠江國白羽の侯なり時宗良親王の母をせりなり
一々奏記ありやと勅撰なりなりとをたしなりなりなり
せりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
門職答判 又宝永二年十二月文野信景の奥書なり右一書行の
書なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
りなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
記す曰興國六年 北京康永三年 北畠親房関の城の援兵を請ふなり今
至く果さず武家方日は増く急に改城殆危なりなりなりなりなり

何請んと欲し白川結城大藏少輔親朝へ送て曰云

七 武論

一卷

林春齋

弘文院林氏の作とて假し七子なり後けく古将師清盛頼朝
尊氏信長秀吉今代湯武の武術用いらるへ後けりなりなり
羅山の賛附す

仲國秘傳集

写本

八卷 本

此書ハナづく馬乃云々や馬の病を云々云々云々云々云々云々
云々云々

百問答

写本

十八卷 一本

卷首は安國元年百問答とありや安國と見心と馬の病の
御海云々問答なり卷末は仲國の判あり

公卿問答

二卷 二本

江州の隠士中井與右衛門の作なり宗意の書目籍考より中井氏死
後二三年を経く慶安三年の頃中井氏の門人校訂し板行す

群書一覽

和書部六

元禄五年正月竹洞野節の序より同日の四月上本す
新撰免玖波集 二十卷十本 宗祇法師

卷之一より卷之六まで 四季連歌 卷之七 神祇
卷之八 釋教 卷之九十 恋上下 卷之十一より卷之十六まで
雑 卷之十七 羈旅 卷之十八 賀 卷之十九 連句

連歌 雑句 卷之二十 發句
假名 真名の両序二条良基公の作し 〇奥書より免玖波集可被准
勅撰可有御存知之由 天氣所依也 延文二年後七月十一日

左中辨時光 謹上 刑部卿殿 追申 依武家奏聞如此御
沙汰也 〇卷末は作者教十人の爵里に附す 〇或書より櫻井其基佐
ハ洛陽の人 剃髪 〇水仙と号す 連歌に於て 〇宗祇宗長同門の

人なり 宗祇新撰免玖波集に撰せられし其基佐の句に入らば
これに憤りて中よりなく 〇宗祇の句に朝味す 〇宗祇の
書より

逸見筑波錢便入 不_レ論_二上手_一與_二下手_一

〇此書は筑波集と名づくものなり 〇人王十二代景行天皇の御子
日本武尊東夷に去られたまひて甲斐の國を治られたまひて酒
折といふ所より筑波にまゐりて 〇筑波の酒を飲まば 〇筑波の
てまの

犬筑波集

宗祇は河の筑波集を撰し 〇俳諧の連歌にありて
新大筑波集 十卷 北村季吟

宗祇の筑波集の書體より宗鑑の犬筑波集なり 〇筑波の

く俳諧の連歌ありし季吟の自序あり

筑波問答 一卷 二条良基公

奥書云々此一帖者自向自答後福光園院攝政御作也
御奥書者應安第五十二月也云々○良基公の自序ありて扶桑
拾葉集ののせむせにあり

連歌新式 一卷 二本

後光嚴院應安年中二條良基公救済周阿相議し連歌古
来の式が刪潤せし追かも良基公の作なり新式今案ハ後光
園院亨徳年中ハ一條禪庵兼良公宗砌と心同く新式
なすびの両度の追加なれりし増補せし云々後相原
院の文龜年中ハ夢菴肖相道遙院殿ハ談合して宗砌より
宗砌よりしきでの諸名匠の詠わらけ雑歌の式がなすめく新
式完備なり

魚言抄 二卷 三本 木食上人應其

此書連歌式目の濫觴なりはの詞四季の詞季ありけり初葉作
りららつむ木食上人應其慶長のころの作く應其慶長二
年ハ行年六十二ハ天正元年より十三年木食上人寺社を修造
すし八十所高野山に住すし二十五年よりハ此書一本角倉
氏の藏板あり光悦の筆跡と以て刻す嵯峨本と稱すものなり
○木食上人の跋云此上下卷ハ天正のころの作なり云々記す
同十四の孟冬ハ比は案松紹巴法師の披題入りし名士のものと引
て解三校合とつけ煩重なけり用捨の和とくふふらりし風
雅ハ木食草衣の器のりしものなり云々十餘の靈奥のすし
らハ南山乞食沙門○慶長二年大覚寺宮空性親王の奥書云々
此魚言抄之作意者西奥書在之不慮被成 睿覽御威不斜故
了留之任 勅定添筆者也○法眼紹巴奥書云此魚言抄之外題者
被添 勅筆再大覚寺殿親王 奥書也一覽之次上人依所望記之而已
慶長四年神無月上旬○又奥書云々以木食興山上人自筆之本

この六蓋すては保ちり櫻桃ハ是都李の偽り... 珠とありしが我邦のさうくハすれども垂絲海棠... 櫻花と品評すもの皆二物の大なり... 詩引く以てこれ証す何ぞ致宗の疎謬... 我邦のさうくは... 人の語傳は因く其名は... 映松枝のすれどもこれ櫻桃の別種... 察せ下りくは山中の様も... 垂絲海棠も老も亦偏なり垂絲はこれさくの總稱... 梅と指し何しホテハ階中すこれハ復こゝも贅せす... ○宝曆八年四月上木す

梅

品 二卷 同上
怡慶齋松岡玄達著 門人 甲賀敬元尚之 今枝栄濟子濟 男典
子勅 全校 卷之上 白梅類 早梅類 海棠類 至 二十九種

卷之下 紅梅類 鴛鴦梅類 縮緬紅梅類 二十五種
雜色類 黃梅類 墨梅類 至六種 胃梅類 有客未識類
有梅名非品類 ○卷首は甲賀敬元漢字の序あり卷尾は宝曆
八年八月男典漢字の跋あり宝曆十年庚辰八月上木す○梅すは
怡慶齋著書の中これハ類すもの蘭品二卷 介品二卷 廣参
品一卷あり共々刊行す

春

草 写本

二卷

伊勢貞丈

此書のしめをてく武家の礼は... 俗間... 流しりハ我家のし... 祖述すし... 卷之上 弓矢の始 弓は本地のし 神代弓矢のし 重加ら... 弓矢す人のし 弓は名所のし 墨目のし ぬたのし 水破兵破のし 調度懸のし 等第一條より第五十條に至る

群書

和書部六

百六

卷之下

野矢ののり 的の始ののり 柳籬ののり 鞆ののり 鞆ののり 弦袋ののり

野矢ののり

的の始ののり 柳籬ののり 鞆ののり 鞆ののり 弦袋ののり

犬追物始ののり

犬追物偽書ののり 赤松ののり 西家分別ののり

第五十一條より

第百條に至る 追加ののり 追かすののり 追かすののり

夏

草

写本 一卷 同上

步射部

十一條 騎射部 十三條 追加一條

秋

草

写本 三卷 同上

卷之上

武家禮法部 七條 人家称呼部 十四條 人體部

廿三條

役名部 十一條

卷之中

官位部 九條 衣服部 四十條 刀劍部 九條

家作部

五條

卷之下

酒食部 十四條 道具部 九條 進物部 八條

祝儀部

九條 土事部 四條 雜事部 六條

○雜事部と云武家の故実の書目世に傳へたるものなり近世に人々

た偽書が皆古今に於て扶桑見聞私記藤九郎成實訓
閱集犬追物秘記とあり偽作と説かり又桂秋齋の書に武門
故実百箇條同作駒馬故実の類武門の類とあり下して委し
たしありとて書は飛鳥井雅綱の奥書に偽書し同名といは
りたりて書たりたりとてハ実記なり又室町記といふものなり
て書たりとてハ実録なり近世偽書多くなりたり古書多く
小りたりとてハ偽書なりとてハ博く古書を覽へば古代
乃中たりとてハ時代々の風俗なり其時代々の文作あり
作人ハ名を引書の時代前夜の取違おらうとてハ
依他ハありとてハ偽書なりとてハ博く古書を覽へば古代
必しありとてハ偽書なりとてハ博く古書を覽へば古代
かりとてハ偽書なりとてハ博く古書を覽へば古代
ありとてハ偽書なりとてハ博く古書を覽へば古代

かくは秋の日と書けしとすれども秋と名けしなり 安永二
年丁酉九月廿日 伊勢貞丈花押

冬 草 写本

一卷 同上

空穂考 飾劔考 甲冑名考 洗革鏡考 弓材考 雜慶七
道具考 武士学文問答等十三條○此四部合せて四季草と称す

菅像辨 写本

一卷 同上

此書巻首の文云北野の天神の自画の像よりもの母は多くらるる
と云ふは繪の作面相たるは怒のさとりなり 菅束
と云ふは黒袍と云ふは肩臂のいたるは後たら其外おどめくは
て強壯衣束と云ふは貞丈按するは右のくく画きしはこまひついで自
画の自画といひ侍りしものなり 今左ふちす趣と考へての自
画よりいふは我像の画きく今にすべし

天神の面相と云くは怒のさとりなりて画きたるハ誤なり
天神の袷束と強壯衣束と画くハありきなり 菅公は像袍のさとり
袍のふやりのなり 袍の袖長のなり 裾の長のなり 社のなり 平緒の
太刀のなり 表袴のなり 笏のなり 沓のなり 菅丞相面作のなり
渡唐天神の像なり 菅家の像天神の像なり
安永九年庚子十月廿六日 灯下書畢 伊勢平藏貞丈述しるなり

本朝事始 写本

二卷 一本

巻首 萍給事法官信西撫と云ふなり 漢字より云ふ
巻之上 皇居 温明殿 神宮 寺 院 基 庫藏 鳥居
學校 折桂法 蹴鞠 圍碁 象戯 巫祝 封域 二十二社
内侍所番神方角之主位 職事進勤之法 揚名馳國之官
巻之下 冠 烏帽子 禮服 禮冠 衣袍 狩衣 舞樂
狹流樂 僮僕 樂器 和琴 天磐 笛 振拍子 柳人
櫻人 鬘 甲 楯 鉏 鋏 曆

內宮假殿遷宮記

治承公卿勅使記

心應公卿勅使參宮茅

神鳳抄

古老口實傳

詔刀師沙汰文

高宮假殿遷宮記

小朝熊神鏡沙汰文

八幡愚童訓

石清水宮畧緣起

宮寺緣事抄

明德放生會記

宗清法印立願文

後伏見院御願書

賀茂皇太神宮記

賀茂雜記

賀茂祭繪詞

後伏見院御願書

春日驗記

春日社記

春日小社記

春日神木入洛記

神葉日記

大輪神三社鎮座次第

大和神社注進狀

廣瀨社緣起

日吉社神道秘密記

日吉神輿入洛記

北野古緣起

同假字緣起

兩聖記

菅神授衣記

天滿宮託宣記

菅家御傳記

最鎮記文

梅城錄

廿二社本緣

廿二社注式

豐秋津島卜定記

大日本國一宮神名記

神名帳頭注

尾張國神名帳

伊豆國神階帳

上野國神名帳

藤森社緣起

熟田宮實平緣起

荏柄天神緣起

宇都宮大明神奇瑞記

竹生島緣起

走湯山緣起

箱根山緣起

松浦宮本緣

造殿儀式

八幡御幸次第

平野行幸次第

神馬引付

太神宮奉詣記

八幡社奉記

春日社奉記

日本紀竟寧不歌

太神宮二所神祇百首

雲州樋河上天淵記

卷第二十九至卷第四十三

帝王部

十九卷

神皇正統記

續神皇正統記

椿葉記

皇代記

皇年代畧記

踐祚部類抄

天衣禮祀職掌錄

本朝世記殘篇

庭槐抄

白上帝記抄

六代勝事記

五代帝王物語

日吉叡山行幸記

元德舞御覽記

書寫山行幸記

花御所行幸記

北山殿行幸記

同真名記

室西殿行幸記

同

永德以下行幸勘例

聚落茅行幸記

天正廿年行幸行列

御幸始部類記

後光嚴院御幸始記

天治高野行幸記

天承兩院熊野御詣記

寬元加茂御幸記

建長加茂御幸記

文應石清水臨幸記

弘長兩院石清水宮御奉詣記

貞和天龍寺臨幸私記

弘安石清水御幸記

延慶八幡御幸記

文永龜山殿御幸記

負和天龍寺臨幸私記

應永御幸記

卷第第四十四至卷第五十九

補任部

十六卷

齋宮記

職事補任

足利家官位記

類聚大補任

同御殿司職次第

僧綱補任

天台座主記

卷第六十至卷第六十三

皇胤紹運錄

大中臣氏系圖

紀氏系圖

中原氏系圖

安部氏系圖

卷第六十四至卷第六十九

齋院記

藏人補任

關東評定傳

豐受宮祢宜補任

同執行職次第

僧官補任

東寺長者補任

系譜部 四卷

諸門跡譜

菅原氏系圖

小野氏系圖

小槻氏系圖

加茂氏系圖

傳部 六卷

攝關補任次第

樂所補任

若狹守護職次第

熊野山別當次第

同學頭職次第

護持僧次第

仁和寺諸院家記

坊官系圖

大江氏系圖

高階氏系圖

和氣氏系圖

豐原氏系圖

武智麻呂傳

辨官補任

將軍執權次第

同今富名領主次第

鶴岡社務職次第

同執事職次第

東大寺別當次第

中臣氏系圖

橘氏系圖

清原氏系圖

丹波氏系圖

巨勢氏系圖

上宮重德法王帝說

和氣清麻呂傳

三十二人歌仙傳

仁和寺御傳

慈惠大僧心傳

興心菩薩傳

太子傳補闕記

田村丸傳記

中古歌仙傳

名匠畧傳

道場法師傳

大職冠傳

白著公羽傳

日本往生極樂記

鑑真東征傳

性空上人傳

女院小傳

續本朝往生傳

相應和尚傳

婆羅門僧心碑文

卷第七十至卷第七十四

官職秘抄

官職難儀

卷第七十五至卷第七十八

律 疏 殘編

法曹至要抄

卷第七十九至卷第百一十

內裏式

官職部 五卷

百寮訓要抄

女房官品

律令部 四卷

律 裏書

令後成恩寺殿御抄

公事部 三十五卷

新儀式

本朝月令

雲圖抄

九條殿年中行事 小野宮年中行事 建武年中行事 年中行事秘抄
 年中行事歌合 神祇官年中行事 東宮年中行事 二節會次第
 釋奠次第 建久五節記 綾小路俊量卿記 朔旦文部類記
 後鳥羽院御踐作次第 後三條院御即位記 山親田院御即位記
 永仁御即位用途記 文安御即位調度圖 御禊行幸節下次弟 延慶御禊行幸記
 大嘗會御禊部類 康治大嘗會記 山安大嘗會記 永和文嘗會記
 永享大嘗會記 大嘗會延引勅例 長元大嘗會御屏風本文
 御讓位部類記 寬元御讓位記 永德御讓位記 天皇御元服部類記
 天皇冠禮部類記 主上御元服上壽作法抄 作法抄 立坊部類記
 東宮御書始部類記 上卿故實 作法故實 四節八座抄
 叅議要抄 羽林要秘抄 新任辨官抄 結改初叅記
 母貝首秘抄 蓬萊抄 夕拜至要抄 柱史抄
 內局柱礎抄 清獬眼抄 夕拜至要抄 除秘抄 蟬冕翼抄
 保元四年大間 江家次第抄

卷第百十二至卷第百二十一 壯裝束部 十卷

雅亮壯裝束抄 助魚智秘抄 飾抄 後照念院殿壯裝束抄
 唯心院殿壯裝束抄 因通院殿壯裝束抄 次將裝束抄 三條家裝束抄
 鷹衣抄 布衣記 永綱壯裝束抄 壯裝束雜事抄
 物具壯裝束抄 衛府具抄 深窓秘抄 撰壁壯裝束抄
 袷帷子着用時節 壯裝束寸法抄 壯裝束裁縫秘抄 女官飾抄
 御禊行幸服色部類 諸鞍日記
 卷第百二十二至卷第百二十七 文筆部 十六卷
 懷風藻 凌雲集 文筆秀麗集 經國集 殘篇
 扶桑集 殘篇 本朝麗藻 魚頭詩集 都氏文集 殘篇
 田氏家集 菅家後集 江吏部集 法性寺殿御集
 雜言奉和 粟田左府尚書會詩 賦光源氏物語詩 天德關詩行事略記
 應和善秀才宅詩合 永承侍臣詩合 天喜殿上詩合 資實長兼百番詩合
 泥之草 續千字文 富士山記 康和三年狐媚記

銅雀研記 匡房卿暮年記 遊女記 傀儡記
浦島子傳 續浦島子傳 玉座町社表書 新猿樂記
作文大體 童蒙誦韻

卷第百三十八至卷第百四十五 消息部 八卷
雲州消息 貴嶺問答 十二月往來 新十二月往來
異制庭訓往來 遊學往來 尺素往來 釋氏往來

山窓往來 後花園院御消息 西行上人消息 定家卿消息稱每月批
越部禪居消息 東野州消息 東素山消息 消息耳底抄

書札禮 今川了俊書札抄 大館常興書札抄 書札作法
女房筆法

卷第百四十六至卷第三百二 和歌部 百五十七卷

拾遺和歌抄 後葉和歌抄 續詞花和歌集 玄玉和歌集
現存和歌六帖 秋風抄 雲葉和歌集 新和歌集

續門葉和歌集 續現葉和歌集 臨水和歌集 藤葉和歌集

玄玉集 今撰和歌集 柳風和歌集 新撰和歌集

金玉集 三十六人撰 後六人撰 新三十六人撰

為家卿十首 師兼卿十首 宗良親王十首 為尹卿十首

文明御看到十首 白川殿七首 龜山殿七首 堀河院御時百首稱本即

永久四年百首稱本即 久安百首 正治院百首 建保名所百首稱本即

弘長元年百首稱本即 丹後守為忠家百首 木權頭為忠家百首 句題百首稱本即

朗詠百首 俊成卿五社百首 國冬朝臣祈雨百首 為兼卿鹿百首

後感恩寺殿南都百首 道助法親王家五十首 新古今集竟宴和歌 續古今集竟宴和歌

文治女御入内御屏風和歌 昭慶門院御屏風和歌

最勝四天王院名所障子和歌 大江千里句題和歌 紀師近家曲水宴和歌

宗尊親王三百首 為理卿七夕七十首 在民部卿家歌合 寬平中宮歌合

聖喜亭子院歌合 同陽成院歌合 同亭子院有心魚心歌合

天德内裏歌合 天延堀川中納言家歌合 同系大納言家歌合 長元大納言家歌合

同賀陽院水閣歌合 長曆涼翁言家歌合 長久徽殿女御歌合 永承祐子内親王家歌合

天喜皇后宮春秋歌 治曆定綱朝臣家歌合 同慈子內親王家歌合 同親王家歌合
 同呂保殿歌合 延久氣多宮歌合 承保攝津守有綱家歌 承曆內重歌合
 應德若狹守通宗朝臣女子產歌合 寬治高陽院歌合 永長東塔東谷歌合
 天仁山家五番歌合 長治源廣綱家歌合 水冬條宮相家歌合 元永內大臣家歌合
 同內大臣家歌合 保安園白內大臣家歌合 大治布林院歌合 同西宮歌合
 同南宮歌合 同住吉社歌合 長承中宮亮頭輔家歌合 久安一家成卿家歌合
 永曆清輔朝臣家歌合 永方重家朝臣家歌合 仁安經盛朝臣家歌合 嘉應宮國卿家歌合
 同住吉社歌合 同建春門院北面歌合 承安廣田社歌合 同新羅社歌合
 安元右大臣家歌合 治承加茂社歌合 同廿二番歌合 同右大臣家歌合
 建久若宮社歌合 同民部卿家歌合 心治御室撰歌合 同仙洞十人歌合
 建仁老若歌合 同新宮撰歌合 同影供歌合 同院撰歌合
 同鳥羽城南寺影供歌合 同水魚瀨釣殿歌合 同恋十五首歌合 同櫻宮歌合
 同八幡宮若宮撰歌合 元久北野宮歌合 建永卿相侍臣歌合 同如茂御祖社歌合
 同別雷社歌合 建曆歌合 同十三夜歌合 同仙洞歌合

建保禁裏歌合 同八月十六日歌合 同九月盡日歌合 同四十五番歌合
 同六月十一日歌合 同百番歌合 同八月廿二日歌合 同月廿四日歌合
 同四月廿日歌合 同八月十五夜歌合 同前園白家歌合 同四十五番歌合
 同十一月四日歌合 同二月十一日歌合 同月十二日歌合 寬喜名清水若宮歌合
 負永攝政家歌合 同名所月歌合 嘉復遠島御歌合 寬元河合社歌合
 室治院歌合 建長影供歌合 文永八月十五夜歌合 同龜山殿歌合
 建治攝政家歌合 心應卅番歌合 永仁八月十五夜歌合 同當座卅番歌合
 心安伊執新名所歌合 同當座歌合 乾元仙洞歌合 同五月四日歌合
 嘉元永福門院歌合 同十八番歌合 元亨外宮北御門歌合 貞治新三津島歌合
 天授五百番歌合 應永內裏歌合 室德仙洞歌合 同百番歌合
 康心內裏歌合 文明親長卿家歌合 同江戶歌合 同七月七日七首歌合
 同廿一番歌合 同九月盡歌合 同將軍家歌合 同十五番歌合
 同殿中十五番歌合 文龜廿六番歌合 大水塔川親孝家歌合 永祿八月十五夜三首歌合
 同秋十五番歌合 文祿後陽成院歌合 近江御息所歌合 源順馬毛名歌合

一條大納言家歌合 西國受領歌合 經平大貳家歌合 源大納言師房卿家歌合
播磨寺兼房家歌合 禊子內親家庚申夜誓 同櫻柳歌合 同夏歌合
山家三番歌合 國信卿家歌合 雪居寺結緣後誓 為兼卿家歌合
傾阿判卅番歌合 公武歌合 武家歌合 心廣判地下歌合
前十五番歌合 後十五番歌合 時代不同歌合 新時代不同歌合
定家隆五十番歌合 建長閑窓歌合 弘長卅六人歌合 女房卅六人歌合
御蒙濯河歌合 宮河歌合 慈鎮和尚自歌合 知家卿自歌合
後京極殿御自歌合 後鳥羽院御自歌合 定家卿自歌合 家隆卿自歌合
隆祐朝臣自歌合 永福門院御自歌合 慈照院殿御自歌合 光孝法印自歌合
道堅法師自歌合 豐原統秋自歌合 十市遠忠自歌合 細川高國朝臣自歌合
元久詩歌合 建保詩歌合 建治現存卅六詩歌 康永詩歌合
守遍詩歌合 文安詩歌合 文明詩歌合 同將軍家詩歌合
寬平菊合 上東門院菊合 朱雀院女郎合 康保內裏前歌合
東三條院撫子合 後冷泉院根合 郁芳門院根合 仲實朝臣女子根合

圓融院扇合 堀川院艷書合 宇子內親王繪合 五番何曾合
三番何曾合 頭昭陳狀 蓮性陳狀 土御門院御集
後宗光院御集稱抄 元良親王御集 宗尊親王御集稱抄 宗良親王御集稱抄
西宮左大臣御集 鎌倉右大臣御集 常德院御集 人磨卿集
家持卿集 兼輔卿集 敦忠卿集 朝忠卿集
師氏卿集 朝光卿集 公任卿集 定賴卿集
俊忠卿集 雅兼卿集 成通卿集 實國卿集
資賢卿集 長方卿集 為重卿集 為廣卿集稱抄
為和卿集 言繼卿集 雅經卿集稱抄 雅有卿集稱抄
輔親卿集 行宗卿集 頭季卿集 頭輔卿集
賴政卿集 紀貫之集 在原業平朝臣集 藤原敏行朝臣集
源宗千朝臣集 源公忠朝臣集 太皇親朝臣集 猿丸大夫集
紀友則集 坂上是則集 藤原清心集 藤原元真集
源信明朝臣集 藤原義孝集 藤原仲文集 源順集

大中臣能宣朝臣集 清原元輔集 平兼盛集 藤原良方朝臣集
 藤原高光集 藤原相如集 源重之集 藤原長能集
 源兼澄集 源道濟集 橘為仲朝臣集 藤原顯綱朝臣集
 源賴實集 津守國基集 源俊賴朝臣集 藤原為忠朝臣集
 菅原在良朝臣集 藤原基俊集 藤原清輔朝臣集 源師光集
 源有房朝臣集 平忠度朝臣集 惟宗廣言集 鴨長明集
 藤原隆信朝臣集 藤原隆祐朝臣集 藤原光經集 源高範集
 平常緣集 源資持集 和藁 源直朝集 和藁 山邊亦人集
 九河内躬恒集 藤原興風集 壬生忠峯集 壬生忠見集
 曾根好忠集 和藁 櫻井基佐集 覺性法親王御集 和藁 守覺法親王御集
 遍昭僧心集 源賢法師集 夢窓國師集 慶運法印集
 光孝法印集 素性法師集 惠慶法師集 安法法師集
 登蓮法師集 俊惠法師集 和藁 寂然法師集 寂蓮法師集
 兼好法師集 元可法師集 宗祇法師集 嘉喜門院集

齋宮女御集 經信卿母集 俊成卿女集 小野小町集
 檜垣姬集 木院侍從集 小馬命婦集 馬内侍集
 伊勢集 中務集 賀茂保憲女集 小大召集
 清少納言集 紫式部集 和泉式部集 相模集 和藁
 赤深衛門集 伊勢大輔集 康資王母集 辨乳母集
 出羽辨集 祐子内親王家紀伊集 二條大皇太后宮大貳集
 待賢門院堀川集 二條院讚岐集 小侍從集 建禮門院右京大夫集
 中殿御會部類記 晴御會部類記 貞治六年中殿御會記 和藁
 柿本朝臣九勘文 柿本影供記 柿本講式 柿本寺人九像彩色勸進帳
 菅家萬葉集 古今和歌集目錄 顯昭古今集序註 古今集童蒙抄
 僻案抄 三代集間事 拾遺抄註 難後拾遺
 散木集 藏玉和歌集 悅目抄 後鳥羽院御傳
 夜鶴抄 一名阿傳 愚向賢註 近來風體抄 和歌九品
 歌仙落書 續歌仙落書 俊成卿正治奏狀 定為法印申文

為垂為世兩卿新陳狀 長明魚名抄
了俊辨要抄 落書露頭
兼載雜談 西公談抄
愚秘抄
井蛙眼目
微書記物語
桐火桶
三五記
今川俊和歌野不審條
東野州園書目

美草三百三至卷第三百六
連歌部 四卷
老乃久理言
連歌新式
老の長佐負 若艸山
連歌本式

卷第三百二十七至卷第三百二十九
物語部 十三卷
大和物語
鳥部山物語
源氏狹衣歌合
源氏物語真入
仙源抄
源語秘訣
伊勢物語 朱雀院塗籠御本
秋夜長物語
物語百番歌合
伊勢物語知見抄
弘安源氏論義
竹取翁物語
松穂物語
物語十二番女合
此系明抄

雨夜談抄

卷第三百二十至卷第三百二十六
日記部 七卷
和泉式部日記 紫式部日記
中務内侍日記 老孝日記
卷第三百二十七至卷第三百四十
紀行部 十四卷
更科日記 高倉院嚴島御幸記
後鳥羽院蘇野御幸記 源光行海道記
道範阿爾和南海流浪記
源親行紀行 轉寝記
十六夜日記 都乃津登
小島乃口須依美 宝篋院殿住吉詣記
道行ゆき
鹿苑院殿嚴島詣記
奈具斜見草 伊勢紀行
富士紀行 覽富士記
富士御覽記 富士歷覽記
善光寺紀行 藤川記
心廣日記 平安紀行
宗祇筑紫道記 北國紀行
廻國雜記 道遠院殿高野詣記
称名院殿吉野詣記 玄旨法印九州道記
長甯子九州道記 尊海僧心紀行
北条氏康武藏野紀行 玄旨法印東國津道記

廬主
道遠院殿高野詣記
尊海僧心紀行

蒲生氏鄉紀行 宗長東路乃海宅 紹巴富士見記 東國紀行

卷茅三百四十一至卷茅三百五十二 管絃部 十一卷

管絃音義 五重十操記 龍鳴抄 懷竹抄

胡琴教錄 舞樂要錄 雜秘別錄 舞曲口傳

夜鶴庭訓抄 殘夜抄 絲竹口傳 木師抄

秦箏血脉 琵琶血脉 琵琶合 八音抄

東遊歌 風俗歌 神樂歌註秘抄 催馬樂註秘抄

新撰朗詠集 梁塵秘抄口傳集 蹴鞠部 二卷

卷茅三百五十三至卷茅三百五十五 享德二年晴御鞠記 後鳥羽院御記

承元御鞠記 貞治二年御鞠記 蹴鞠肝要抄 遊庭秘抄

成道卿口傳 蹴鞠略記 蹴鞠部 二卷

卷茅三百五十六至卷茅三百五十七 鷹部 二卷

新修鷹經 嵯峨野物語 白鷹記 卷鷹部

後京極殿鷹三百首 定家卿鷹三百首 慈鎮和尚鷹百首 定家卿鷹百首

西園寺殿鷹百首 根津松鷗軒記

卷茅三百五十八至卷茅三百六十三 遊戯部 六卷

薰集類抄 後伏見院宸翰薰物方 與久佐濃多祿

五月兩日記 志野宗信家名香合名香目錄 園基口傳

園基式 仙傳抄 君墨觀左右帳記 御飾記

作庭記 洛陽四樂記 文安田樂能記 紉河原勸進猿樂日記

同勸進申樂記 粟田口猿樂記

卷茅三百六十四至卷茅三百六十八 飲食部 五卷

厨事類記 世俗立要集 四條流庖丁書 武家調味故實

大草預料理書 庖丁聞書 大草相傳聞書 喫茶養生記

喫茶往來 酒茶論 亭子院給酒 酒食論

北野大茶湯記

卷茅三百六十九至卷茅三百九十九 合戰部 三十卷

將門記 純友追討記 陸奥話記 後二年合戰記

承久記	梅松論	伯耆卷	明德記
應永記 <small>一名大内義弘退治記</small>	嘉吉記	長祿寬正記	應仁別記
文正記	應仁略記	應仁別記	
永祿記	細川兩家記 <small>名三川分流記</small>	關東兵亂記	
大和記	鎌倉大草紙	河越記	
結城戰場物語	豆相記	房總治亂記	
深谷記	鶴臺後記	舟田亂記	
鹿島治亂記	江北記	伊達成実記	
箕輪記	蒲生氏郷記	荒山合戰記	
柴田退治記	小松記	別所長治記	
末森記	赤松再興記	三好別記	
大内義隆記	河州將裔記	親房卿圍城書	
十河物語	大友興廢記 <small>一名九條治通記</small>		
難太平記	上月記		
	荒木略記		

吉野事書案	阿蘇惟澄申狀	菊池武朝申狀	上杉輝虎注進狀
曹臣大内御事書	沙弥洞然長狀		
卷之四百至卷之四百二十四	武家部	二十五卷	
負永式目	負永式目追加	建武式目	建武式目追加
侍所沙汰篇	政所壁書	大内家壁書	北條早雲廿一箇條
武田信玄百箇條	朝倉敏景十七箇條	長曾我部元親百箇條	鹿苑院殿御元服記
普廣院殿御元服記	光源院殿御元服記	常德院殿御乘馬始記	
宝篋院殿將軍宣下記	普廣院殿任大臣會見記		
同御拜賀次第	同大將御拜賀雜事	鹿苑院殿御直衣始記	
長祿二年已後申次記	殿中申次記	年中定例記	正月御事始記
成氏朝臣年中行事	飯尾宅御成記	畠山亭御成記	祇園會御見物御成記
伊勢亭御成記	三好亭御成記	朝倉亭御成記	前田亭御成記
文祿四年御成記	諸大名衆御成申入記	供立日記	御供故事
走衆故事	大内問答	奉公覺悟記	了後大雙紙

宗五大雙紙	簾中舊記	上臈名事	嫁文記
嫁迎記	方量物	射礼私記	大的體拜記
流鏑馬次第	芝掛記	鹿足記	大進物目安
騎射秘抄	八廻日記	出法師落書	高忠聞書
家中竹馬記	土岐家聞書	矢閑記	狩詞記
空穗次第	隨兵日記	隨兵次第	軍陣聞書
築城記	御産所日記	産所記	建治元年記
文明十一年記	六波羅下知	攝津親秀護狀	齋藤親基日記
御隨身三上記	諸家紋帳	義貞記	武具要說
馬具寸法記			

卷第四百二十五至卷第四百四十五 釋家部 二十一卷

釋家初例抄 釋家官班記 太神宮御相傳衣渡記 石清水不斷念佛緣起
 加茂櫻會緣起 春日社二十講最初御願文 圓明寺御願文
 後宇多院御灌頂記 承久二年七月佛藥師御修法記 後嵯峨院宸筆御講記

同假字記	延德御八講記	和名言の抄	雲井乃抄
後土御門院十三回聖忌記	真山乃抄	後光嚴院三十三回聖忌記	陽祿門院三十三回聖忌記
仁和寺諸堂記	廣隆寺来由記	清水寺緣起	醍醐寺緣起
安樂光院記	楞伽寺記	勸修寺緣起	般舟三昧院記
南禪寺記	資聖禪寺造營記	東福紀年錄	萬壽寺禪寺記
鹿王院記	尊勝寺供養記	法勝寺供養記	龜量寺院供養記
法成寺金堂供養記	同藥師堂供養記	東北院供養記	延德寺供養記
建武元年東寺塔供養記		相國寺供養記	同塔供養記
大安寺伽藍緣起并流記	資財帳	同寬平緣起	藥師寺緣起
東大寺大佛記	同造位供養記	同金銅記文	興福寺緣起
多武峰緣起	同略記	長谷寺緣起	當麻寺緣起
觀心寺緣起實錄帳	山門堂社記	叡岳要記	九院佛閣抄
延曆中堂供養記	天元同供養記	永心同供養記	弘法大講堂供養記

詳書一覽 和書部六

木下川藥師佛緣起 日光山中禪寺私記 讚岐國白峯寺緣起 筑前國聖福寺佛殿記
永正八年高野山燒失記 近江國金勝寺官符 佛牙舍利記 鹿王院如意宝珠記
二荒山十部會緣起 日光山三月會緣起 慈惠大僧正遺告 阿弥陀院宝物帳
觀世音寺資財帳 左記 右記 鶴岡執行珍祐法印記

卷第四百四十六至卷第五百三十 雜部 八十四卷

發心和歌集 法文百首和歌
古語拾遺 日本靈異記 新撰姓氏錄 大鏡裏書
康平記 宇槐雜抄 達幸故實抄 天慶二年記
永久元年記 醍醐寺雜事記 仁和寺日次記 文保三年記
元弘元年劔璽渡御記 光明寺殘篇 關城書裏書
建武記 鳩嶺雜事記 祇園執行日記 醍醐雜抄
後奈良院御記 御湯殿上日記 保曆間記 在常三代記
如是院年代記 編記 革命勘文 諸道勘文
長寬勘文 法曹類林 濫觴抄 代始私抄

禁秘御抄一名建曆 禁掖秘抄 名目抄 世俗淺秘抄
類聚雜要抄 桃華葉葉 弘安禮節 二判御事

三内口訣 大饗畧次第 大饗御裝束御事 大饗御新事
嘉禎二年六月大饗畧次第 建長六年十二月大饗畧次第

十七箇條憲法 建曆三年新制廿箇條 清行朝臣意見十二箇條
文時卿封事三箇條 寬平御遺誠 九條殿遺誠 遊柿

竹馬抄 小夜の寢覚 文明一統記 遊談治要
乳母の文 乳母艸紙 身の形見 悉抄

清少納言批草紙異本 隆房卿艶詞 長明方丈記 頓阿十樂卷記
肖相夢菴記 同三愛記 宗長宇都山記一名名院右府三塔巡礼記

同石山月見記 東光院殿嵯峨記 尊朝法親王唐崎松記 玄上法印夢想記
こゝろ衣 多武峰少将物語 鳴門中將物語 時秋物語

今物語 野守鏡 吉野拾遺 江談抄
續古事談 東齋隨筆 大槐秘抄 ね抄の日記

真俗交談記 鑿鹽嘶餘 門室有職抄 海藻芥
 駿牛繪詞 國牛十圖 伊行朝臣夜鶴抄 赤葉抄一名筆體抄
 入木抄 仁和寺書籍目錄 信西藏書目錄 文和仙洞御書目錄
 點圖部類 大和假名反切義辭 桂林遺芳抄 新撰字鏡
 中正子 出雲風土記 豐後風土記 對馬國貢銀記
 多氣窓堂 駿河風土記 安東郡專當沙汰文
 康正二年造内裏段錢國役引付 東北院職人歌合 鶴岡放生會職人歌合
 三十六番職人歌合 七十一番職人歌合 十二類歌合 調度歌合
 永正狂歌合 常盤姬物語 精進魚類物語 柿本氏系圖
 後奈良院御撰何曾公武大體略記 世諺問答 曆林問答
 紹運要略 立坊次第 女后名字抄一名貴抄 女院記
 謚號雜記一名船水 曆名土代 御評定着座次第 永曆以來御番帳
 文安年中御番帳 永祿六年諸役人付 長亨元年江州御勤勞在御番帳
 東大寺奴婢籍帳 常樂記 近江國番場宿蓮華寺過去帳

相模國鎌倉松岡過去帳 常陸國六段田村六地藏寺過去帳
 同國田島村和光院過去帳 類聚雜例 高倉院御撰御記
 四條院御葬禮記 畠山院御葬禮記 伏見院御中陰記 後奈良院御撰御記
 後小松院崩御記 山乃霞 山賤記 後奈良院御撰御記
 新待賢門院七心御願文 鹿苑院殿葬記 同進善記
 鹿苑院殿撰御願文 總見院殿進善記 朝乃雲 宗祇終焉記
 古事次第 古事畧儀 贈官位宣旨記 御撰御記
 文保記 永正記 觸穢考 婚記
 女御産部類記 中宮御産部類記 治承二年中宮御産記 春琴門院御百日記
 延慶四年新院姬官御行始記 北山女院御入内記 安元御賀記
 俊成卿九十賀記 称名院右府七十賀記 清輔朝臣尚齒會記
 已上一千二百七十三部
 ○按下日本邦古來書典乃大部カの八滋野シノ自ミの秘府略十卷

のころより降^タり、藤原敦基^{ツツモト}の柱下^{チカカ}類林^{ルイリン}二百^ニ十^{ジュウ}卷^{マク}藤原通
 憲^{ツツノ}の法曹^{ホフソウ}類材^{ルイサイ}二百^ニ十^{ジュウ}卷^{マク}其書^{シヨ}も早^{ハヤ}く世^セに傳^{ツタ}へり
 國史^{クニシ}を^{シテ}淳和^{ツヅカ}天皇^{テウ}の文長^{ブンチヤウ}八年^{ハチネン}東宮^{トウキウ}與子^{ヨシ}滋野^{シノ}の主^{ヌシ}諸儒^{シヨ}古今^{コキン}の
 書^{シヨ}撰集^{センシツ}す類材^{ルイサイ}以^テ相^{シム}後^{ノチ}一^{ヒト}千^{チヨウ}卷^{マク}の略^{リョク}と名^ナけり
 今^{イマ}堀氏^{ホリノ}集^{シツ}む所の書^{シヨ}すは一^{ヒト}千^{チヨウ}二^ニ百^ニ七^{シチ}十^{ジュウ}餘^ヨ部^ブに及^キべり彼^{カノ}天皇^{テウ}よ
 り^{シテ}千^{チヨウ}歳の今^{イマ}に至^キり此^{コノ}盛^{セイ}奉^{ホウ}は^{シテ}一^{ヒト}千^{チヨウ}二^ニ百^ニ七^{シチ}十^{ジュウ}餘^ヨ部^ブに及^キべり
 此^{コノ}書^{シヨ}も名^ナけり^テ類^{ルイ}後^{ノチ}の二^ニ字^ジ類^{ルイ}以^テとす^ルは^{シテ}一^{ヒト}千^{チヨウ}二^ニ百^ニ七^{シチ}十^{ジュウ}餘^ヨ部^ブに及^キべり
 續^{ツヅ}群^{グン}書^{シヨ}類^{ルイ}後^{ノチ}彙^イ輯^{テツ}の^{シヨ}一^{ヒト}千^{チヨウ}二^ニ百^ニ七^{シチ}十^{ジュウ}餘^ヨ部^ブに及^キべり
 其^{シテ}人^{ヒト}某^{ナニ}氏^ノの^{シヨ}一^{ヒト}千^{チヨウ}二^ニ百^ニ七^{シチ}十^{ジュウ}餘^ヨ部^ブに及^キべり

享和二壬戌年五月

江戸

日本橋南壹丁目

須原屋 茂兵衛

心齋橋筋北久太郎町

加賀屋 善藏

大阪

新町西口破場

海部屋 勘兵衛

